



令和7年度 東京湾環境一斉調査 調査結果

令和8年3月

東京湾再生推進会議モニタリング分科会
九都県市首脳会議環境問題対策委員会水質改善専門部会
東京湾岸自治体環境保全会議
東京湾再生官民連携フォーラム東京湾環境モニタリングの推進プロジェクトチーム

目 次

1.	調査概要	2
2.	調査参加機関	4
3.	調査地点	8
4.	気象・海象の状況	10
5.	東京湾の水質の状況	11
5-1.	令和7年度の結果	11
5-2.	過去との比較	15
6.	河川・湖沼の調査結果	28
7.	東京湾に流入する主な河川の状況	31
8.	生物調査の実施実績	44
8-1.	干潟調査	44
8-2.	その他の調査	52
8-3.	「東京湾生物情報とりまとめおせっ会」による取組	55
9.	環境啓発活動等のイベント開催実績	56
10.	用語解説	78
11.	問い合わせ先等	82

参考資料

- I 調査レポート（干潟調査）
- II 調査レポート（干潟以外調査）
- III 調査レポート（「東京湾生物情報とりまとめおせっ会」による取組）

はじめに

国の関係機関や地方公共団体、教育・研究機関、企業、市民団体などが連携し、平成 20 年度から実施してきた東京湾水質一斉調査は、平成 25 年度より東京湾環境一斉調査と名称を変更いたしました。東京湾水質一斉調査の開始から数えますと、本調査は 18 回目の実施となります。東京湾環境一斉調査は、「多様な主体が協働しモニタリングを実施することにより国民・流域住民の東京湾再生への関心を醸成する」ほか、「東京湾の全域及び陸域を対象とした一斉での調査を通じ、東京湾の汚濁メカニズムを解明する」ことを目的として実施されております。本年度も東京湾及び流域の環境に関心を寄せる多くの方々に御参加いただき、多数の貴重なデータを得ることができました。

令和 6 年度調査と同様、より多くの皆様に御参加いただくために、生物調査については事前募集で登録されていない調査についても報告を受け付けました。本報告書では、東京湾の全域及び流域における令和 7 年 8 月の水質の状況と令和 7 年度に実施された生物調査の結果及び環境啓発活動等のイベントの実施報告について掲載しております。

本報告書が、調査に参加された方々をはじめ、東京湾に関心をお持ちの皆様にとっての一助となり、また、より多くの方に関心を持っていただくきっかけとなれば幸いです。

○本報告に掲載のコンター図の作成方法について

本報告では、海域の調査結果（①水温分布、②塩分分布、③溶存酸素量（DO）分布、④化学的酸素要求量（COD）分布、⑤透明度分布）についてコンター図を作成し、本文中に図として報告しています。

これらのコンター図の作成方法について以下に示します。

東京湾環境一斉調査の調査地点は、東京湾全域で位置的に偏りがあるため、コンター図を作成するには一定間隔の格子点に、近くの調査地点のデータを空間補間（内挿法には、クリギング法（サンプル数が少ないデータに適した手法）を用いています。）することで作成します。この空間補間は、観測地点の観測データに重みをつけ、離れるに従い重みを小さくして未計測の格子点の観測値を推定します。

1. 調査概要

(1) 主催

○東京湾再生推進会議モニタリング分科会

- ・国土交通省 ・国土交通省関東地方整備局 ・海上保安庁
- ・第三管区海上保安本部 ・水産庁 ・環境省※ ・埼玉県
- ・千葉県 ・東京都 ・神奈川県 ・横浜市 ・川崎市
- ・千葉市 ・さいたま市

○九都県市首脳会議環境問題対策委員会水質改善専門部会

- ・埼玉県 ・千葉県 ・東京都 ・神奈川県 ・横浜市※
- ・川崎市 ・千葉市 ・さいたま市 ・相模原市

○東京湾岸自治体環境保全会議

- ・東京都 ・江戸川区 ・大田区 ・江東区 ・品川区 ・中央区
- ・港区
- ・千葉県 ・市川市 ・市原市 ・浦安市 ・木更津市 ・君津市
- ・鋸南町 ・袖ヶ浦市 ・館山市 ・千葉市 ・習志野市 ・富津市
- ・船橋市 ・南房総市
- ・神奈川県 ・川崎市※ ・三浦市 ・横浜市 ・横須賀市

○東京湾再生官民連携フォーラム東京湾環境モニタリングの推進プロジェクトチーム

行政関係者、研究者、専門家、漁業関係者、釣人、マリンレジャー関係者、企業関係者、NPO、教育関係者、一般市民等の多数の方々より構成され、東京湾の再生のための連携や協働活動を実施。

※幹事

(2) 後援

一般社団法人 日本経済団体連合会

(3) 調査内容

① 水質調査

【海域】水温、塩分、溶存酸素量 (DO)、化学的酸素要求量 (COD)、透明度

【陸域】水温、流量、溶存酸素量 (DO)、化学的酸素要求量 (COD)、透視度

② 生物調査

③ 環境啓発活動等のイベント

(4) 調査日

① 水質調査

令和7年8月6日を調査基準日とし、調査基準日を含む前後数日間を中心に調査を実施しました。

② 生物調査

令和7年7月から9月に実施された生物調査のデータを提供いただきました。

③ 環境啓発活動等のイベント

令和7年7月から10月に実施された水質改善等に関する普及啓発活動を含むイベントの報告をいただきました。

(5) 調査参加機関 175 機関 (重複機関含む)

① 水質調査

157 機関

② 生物調査

9 機関

③ 環境保全啓発等イベントの実施

9 機関

(6) 水質調査実施地点数

海域 332 地点、陸域 435 地点 計 767 地点

(7) 生物調査の結果・データ報告数

9 件

(8) 環境啓発活動等のイベント開催数

10 件

2. 調査参加機関

【水質調査データ提供機関】

<企業>72 機関

- ・ AGC 株式会社 AGC 横浜テクニカルセンター
- ・ DIC 株式会社 千葉工場
- ・ DM 三井製糖株式会社 千葉工場
- ・ ENEOS 株式会社 根岸製油所
- ・ ENEOS 株式会社 川崎製油所
- ・ JFE スチール株式会社
- ・ JFE 鋼板株式会社 千葉製造所
- ・ JFE スチール株式会社 東日本製鉄所 (京浜地区)
- ・ JNC 石油化学株式会社 市原製造所
- ・ 曙ブレーキ岩槻製造株式会社
- ・ 旭化成株式会社製造統括本部 川崎製造所
- ・ 味の素株式会社 川崎事業所
- ・ アルバック成膜株式会社
- ・ いであ株式会社
- ・ 出光興産株式会社 千葉事業所
- ・ エア・ウォーター・パフォーマンスケミカル株式会社
- ・ 株式会社 J-オイルミルズ 千葉工場
- ・ 株式会社環境テクノ
- ・ 株式会社キミカ
- ・ 株式会社 SUMCO
- ・ 株式会社東芝 横浜事業所
- ・ 株式会社日本触媒川崎製造所 浮島工場
- ・ 株式会社日本触媒川崎製造所 千鳥工場
- ・ 株式会社日立製作所 中央研究所
- ・ 株式会社プロテリアル 熊谷磁材工場
- ・ 株式会社横浜八景島
- ・ 株式会社レゾナック 基礎化学品事業部 川崎事業所
- ・ 株式会社レゾナック 秩父事業所
- ・ 株式会社レゾナック 千葉事業所
- ・ 株式会社レゾナック 横浜事業所
- ・ 株式会社ロッテ 浦和工場
- ・ 川口薬品株式会社 浦和事業所
- ・ キッコーマン食品株式会社 野田工場製造第1部
- ・ キッコーマン食品株式会社 野田工場製造第2部
- ・ キッコーマン食品株式会社 野田工場製造第3部
- ・ 麒麟麦酒株式会社 横浜工場
- ・ グリコマニュファクチャリングジャパン株式会社 千葉工場
- ・ 京葉ユーティリティ株式会社
- ・ コアレックス三栄 株式会社
- ・ 新東日本製糖株式会社
- ・ 住友化学株式会社 千葉工場(袖ヶ浦地区)
- ・ セイコーインスツル株式会社 高塚事業所
- ・ セントラル硝子株式会社 宇部工場川崎製造所
- ・ ダイワ化成株式会社
- ・ 太平洋製糖株式会社
- ・ 宝酒造株式会社 松戸工場
- ・ 電源開発株式会社 磯子火力発電所
- ・ 東亜建設工業株式会社
- ・ 東亜合成株式会社 川崎工場
- ・ 東亜合成株式会社 横浜工場
- ・ 東亜石油株式会社
- ・ 東京ガス株式会社 袖ヶ浦 LNG 基地
- ・ 東京ガス株式会社 扇島 LNG 基地
- ・ 東京ガス株式会社 根岸 LNG 基地
- ・ 東芝エネルギーシステムズ株式会社 浜川崎工場
- ・ 東芝プラントシステム株式会社 川崎事業所

- ・ 東洋水産株式会社 埼玉工場
- ・ 流山キックマン株式会社
- ・ 日油株式会社 川崎事業所
- ・ 日産自動車株式会社 横浜工場
- ・ 日本冶金工業株式会社
- ・ 日産自動車株式会社 本牧専用埠頭
- ・ 日本ゼオン株式会社 川崎イノベーションフロンティアポート 川崎工場
- ・ 日本製鉄株式会社 技術開発本部
- ・ 日本製鉄株式会社 東日本製鉄所 君津地区
- ・ 日本製紙クレシア株式会社 東京工場
- ・ 日本乳化剤株式会社 川崎工場
- ・ 復建調査設計株式会社 東京支社
- ・ 三井化学株式会社 市原工場
- ・ 三菱ケミカル株式会社 関東事業所
- ・ 森永乳業株式会社 東京多摩工場
- ・ 雪印メグミルク株式会社 野田工場

＜市民団体＞2 機関

- ・ NIPPON EXPRESS ホールディングス株式会社/ヴォース・ニッポン
- ・ NPO 法人ふるさと東京を考える実行委員会

＜教育・研究機関＞1 機関

- ・ 公益財団法人 日本海事科学振興財団船の科学館

＜その他＞2 機関

- ・ 一般社団法人 埼玉県環境計量協議会
- ・ 水辺のクリエイターズ

＜地方公共団体＞72 機関

- ・ 坂戸、鶴ヶ島下水道組合
- ・ 板橋区 資源環境部 環境政策課 自然環境保全係
- ・ 市川市 下水道部 河川・下水道管理課
- ・ 市川市 生活環境保全課
- ・ 市野川浄化センター
- ・ 市原市 環境部 環境管理課
- ・ 市原市 上下水道部 下水道施設課
- ・ 印旛沼下水道事務所
- ・ 浦安市 環境部 環境保全課
- ・ 江戸川下水道事務所
- ・ 大田区 資源環境部 環境政策課
- ・ 春日部市 環境経済部 環境政策課
- ・ 神奈川県 環境課 水環境グループ
- ・ 神奈川県水産技術センター
- ・ 川口市 環境部 環境保全課
- ・ 川越市 環境部 環境対策課
- ・ 川崎市 環境局 環境対策部 環境保全課
- ・ 川崎市 上下水道局 下水道部 下水道水質課
- ・ 木更津市 環境部 環境政策課
- ・ 木更津市 都市整備部 下水道推進室
- ・ 北区 生活環境部 環境課 環境規制調査係
- ・ 君津市 済環境部 境保全課

- ・ 君津富津広域下水道組合
 - ・ 熊谷市 環境政策課
 - ・ 熊谷市 上下水道部 下水道課
 - ・ 毛呂山・越生・鳩山公共下水道組合
 - ・ 高坂浄化センター
 - ・ 江東区 環境清掃部 環境保全課調査係
 - ・ 越谷市 環境経済部 環境政策課
 - ・ 埼玉県 荒川右岸下水道事務所
 - ・ 埼玉県 荒川左岸南部下水道事務所
 - ・ 埼玉県 荒川左岸北部下水道事務所
 - ・ 埼玉県 環境部 水環境課
 - ・ 埼玉県 下水道事業課
 - ・ 埼玉県 中川下水道事務所
 - ・ さいたま市 環境科学課
 - ・ さいたま市 下水道維持管理課
 - ・ 狭山市 環境経済部環境課
 - ・ 草加市 市民生活部環境課
 - ・ 袖ヶ浦市 環境管理課
 - ・ 袖ヶ浦市 都市建設部 下水道課
 - ・ 館山市 建設環境部 環境課
 - ・ 館山市 建設環境部 下水道課
 - ・ 秩父市 環境部 下水道センター
 - ・ 千葉県 環境生活部 水質保全課
 - ・ 千葉県 水産総合研究センター 東京湾漁業研究所
 - ・ 千葉市 環境規制課
 - ・ 千葉市 中央浄化センター
 - ・ 千葉市 南部浄化センター
 - ・ 中央区 環境土木部 環境課
 - ・ 東京都 環境局 自然環境部 水環境課 東京湾担当
 - ・ 東京都 下水道局 計画調整部 事業調整課
 - ・ 東京都 下水道局 流域下水道本部 技術部 計画課
 - ・ 所沢市 環境対策課
 - ・ 習志野市 企業局
 - ・ 習志野市 都市環境部 環境政策課
 - ・ 西東京市 みどり環境部 環境政策課
 - ・ 八王子市 環境部 環境保全課
 - ・ 日高市 上・下水道部 下水道課
 - ・ 富津市 市民部 環境保全課
 - ・ 船橋市 環境部 環境保全課
 - ・ 船橋市 下水道部 下水道施設課
 - ・ 町田市 下水道部 水再生センター
 - ・ 松戸市 金ヶ作終末処理場
 - ・ 松戸市 環境部 環境保全課
 - ・ 松戸市 建設部 下水道維持課
 - ・ 三浦市 上下水道部 下水道課
 - ・ 港区 環境リサイクル支援部 環境課 環境指導アセスメント係
 - ・ 横須賀市 環境保全課
 - ・ 横須賀市 上下水道局
 - ・ 横浜市 下水道河川局水質課
 - ・ 横浜市 港湾局
 - ・ 横浜市 みどり環境局
- <国>8 機関
- ・ 関東地方整備局 荒川下流河川事務所
 - ・ 関東地方整備局 荒川上流河川事務所
 - ・ 関東地方整備局 江戸川河川事務所
 - ・ 関東地方整備局 京浜河川事務所
 - ・ 関東地方整備局 京浜港湾事務所
 - ・ 関東地方整備局 東京空港整備事務所
 - ・ 関東地方整備局 東京湾口航路事務所
 - ・ 関東地方整備局 横浜港湾空港技術調査事務所

【生物調査データ提供機関】

- ・浦安市三番瀬環境観察館
- ・大田区環境マイスターの会
- ・京浜港湾事務所
- ・国土交通省関東地方整備局
東京空港整備事務所
- ・東京都板橋区
- ・東京都環境局自然環境部水環境課
- ・横浜港湾空港技術調査事務所
江戸前アサリわくわく調査
- ・横浜港湾空港技術調査事務所
生物観察会
- ・横浜市港湾局

【環境啓発等イベント実施機関】

- ・旭化成株式会社 製造統括本部
川崎製造所 環境安全部
- ・海辺つくり研究会
- ・金沢八景－東京湾アマモ場再生会議
- ・株式会社日本触媒 川崎製造所
- ・東亜合成株式会社 川崎工場
- ・東京湾大感謝祭実行委員会
- ・東京湾 UMI プロジェクト参加企業
- ・日本製鉄株式会社 技術開発本部
- ・横浜港湾空港技術調査事務所

参加機関数は、表 2-1 のとおり推移しています。

表 2-1 参加機関数の推移

	第 13 回	第 14 回	第 15 回	第 16 回	第 17 回	第 18 回
一斉調査 基準日	令和 2 年 8 月 5 日	令和 3 年 9 月 16 日	令和 4 年 8 月 3 日	令和 5 年 8 月 9 日	令和 6 年 8 月 7 日	令和 7 年 8 月 6 日
企業	83	70	74	78	76	77
市民団体	11	5	14	11	3	5
教育・研究機関	5	7	5	2	1	1
その他	4	6	3	1	2	3
地方公共団体	66	64	72	72	74	76
国	8	9	14	15	14	13
合計	177	161	182	179	170	175

※水質調査・生物調査・環境啓発活動等のイベントのうち複数の調査に参加した機関は、それぞれの調査ごとに計上しています。

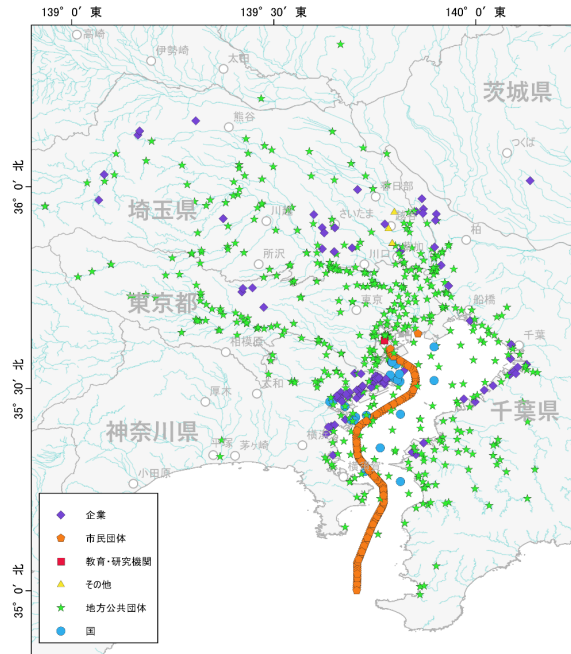
3. 調査地点

水質調査は、海域 332 地点、陸域 435 地点、計 767 地点における調査データが集まりました。水質調査の調査地点数は、表 3-1 のとおり推移しています。東京湾環境一斉調査地点の広域図（図 3-1）と東京湾周辺の詳細な調査地点（図 3-2）を調査機関別に示します。

表 3-1 過去 5 年間の実施機関別調査地点数※

一斉調査 基準日	第 13 回		第 14 回		第 15 回		第 16 回		第 17 回		第 18 回	
	令和 2 年 8 月 7 日		令和 3 年 9 月 16 日		令和 4 年 8 月 3 日		令和 5 年 8 月 9 日		令和 6 年 8 月 7 日		令和 7 年 8 月 6 日	
海域/ 陸域	海域	陸域	海域	陸域	海域	陸域	海域	陸域	海域	陸域	海域	陸域
企業	53	52	39	52	46	43	35	61	44	48	36	43
市民団体	310	1	303	1	311	1	1	4	283	0	165	0
教育・研究 機関	42	0	49	6	8	0	4	0	1	0	1	0
その他	0	1	0	5	0	1	0	1	0	4	1	10
地方公共 団体	119	302	118	270	147	282	134	285	109	288	106	306
国	35	74	39	80	61	87	48	74	26	74	23	76
計	559	430	548	414	573	414	222	425	463	414	332	435
合計	989		962		987		647		877		767	

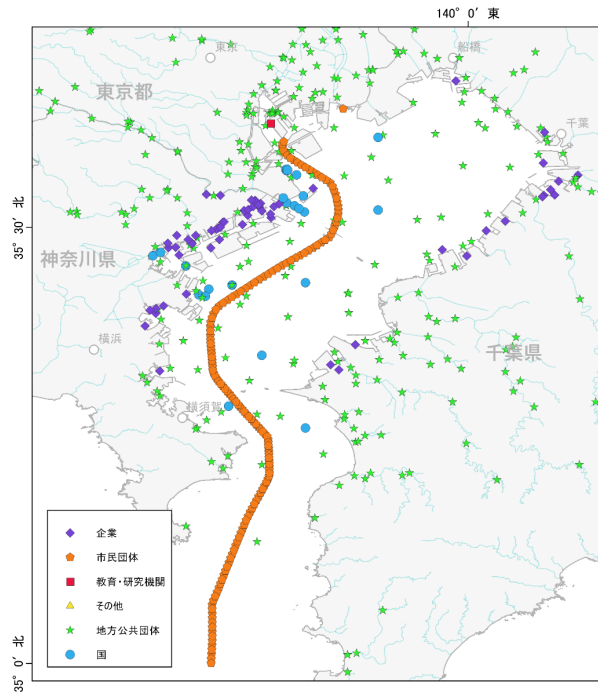
※調査地点数には一斉調査基準日でない日に行われた調査地点を含みます。



調査基準日 8月6日以外に以下の実施日を含む全地点の水質データを元に作成
 (海域) 8月1日、8月5日、8月7日、8月13日、8月15日、8月20日
 (陸域) 6月8日、7月9日、8月1日、8月4日、8月5日、8月7日、8月8日、8月10日、8月12日、8月13日、8月14日、8月20日

背景地図：国土地理院発行の「数値地図（国土基本情報）」をもとに(株)ケンズシステムが加工、国土交通省国土政策局「国土数値情報（河川データ）」をもとに(株)ケンズシステムが編集・加工

図 3-1 令和 7 年度東京湾環境一斉調査地点図（広域図）



調査基準日 8月7日以外に以下の実施日を含む全地点の水質データを元に作成
 (海域) 8月1日、8月5日、8月7日、8月13日、8月15日、8月20日
 (陸域) 6月8日、7月9日、8月1日、8月4日、8月5日、8月7日、8月8日、8月10日、8月12日、8月13日、8月14日、8月20日

背景地図：国土地理院発行の「数値地図（国土基本情報）」をもとに(株)ケンズシステムが加工、国土交通省国土政策局「国土数値情報（河川データ）」をもとに(株)ケンズシステムが編集・加工

図 3-2 令和 7 年度東京湾環境一斉調査地点図（東京湾周辺）

4. 気象・海象の状況

調査日前後の気象・海象状況として、アメダス（東京、羽田、横浜、千葉）の観測データ（平均気温、降水量、日射時間、時間平均風速）と潮位（東京）の状況を図 4-1 に示します。東京湾環境一斉調査当日は、3 地点とも平均気温が 30℃を超えており、降水量は 0 mm/day でした。日射時間は東京と千葉で 10 時間程度、横浜で 12 時間程度でした。また、当日は風速が 5 m/s 前後で南方向～東方向から風が吹いていました。

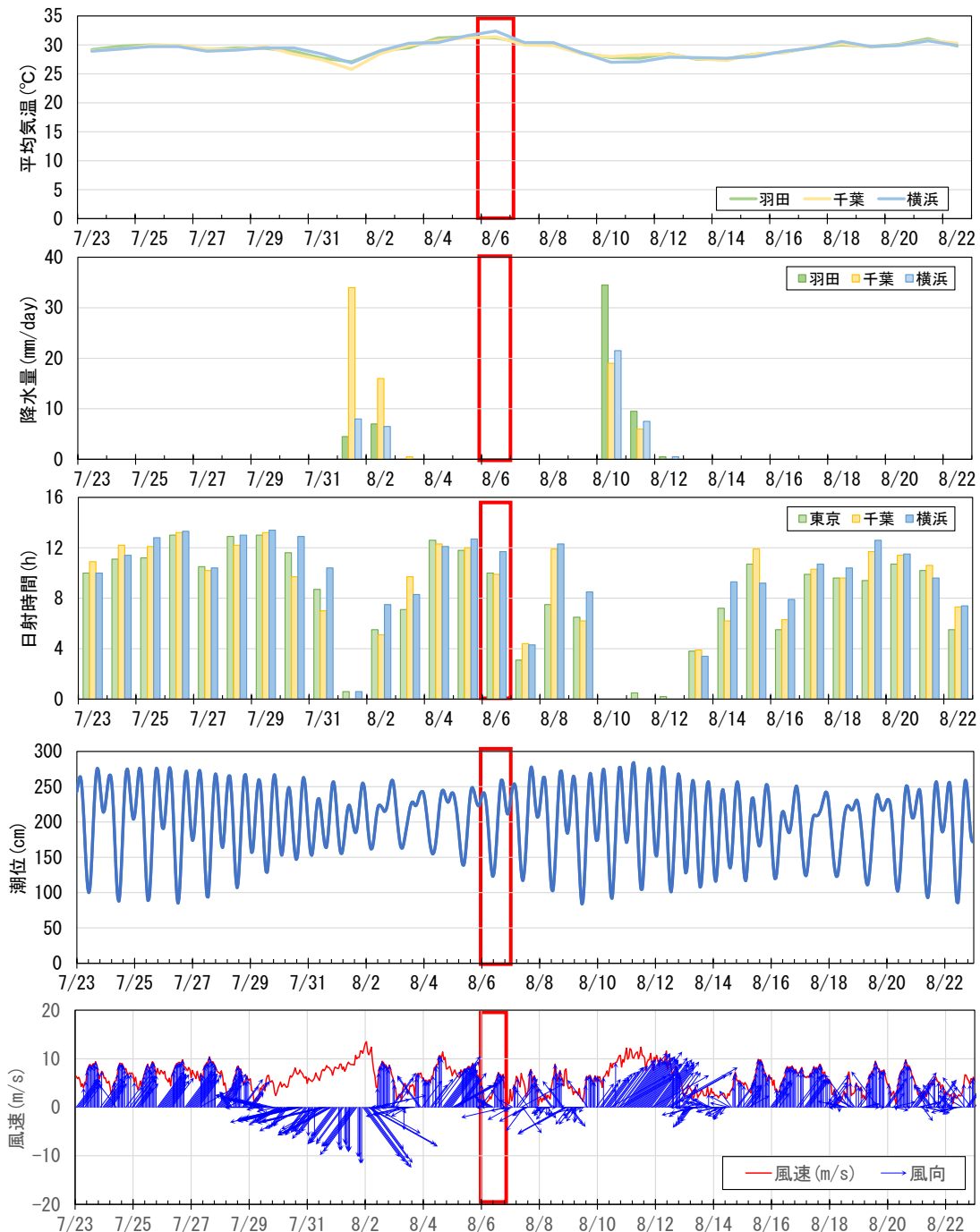


図 4-1 令和 7 年度の調査基準日前後の気象・海象状況
 (: 東京湾環境一斉調査基準日)

5. 東京湾の水質の状況

5-1. 令和7年度の結果

令和7年度東京湾環境一斉調査基準日（令和7年8月6日）と基準日の前後1日を含めた3日間の水温、塩分、溶存酸素量（DO）、化学的酸素要求量（COD）、透明度の合計を図5-1から図5-5に示します（令和7年度調査については、基準日における観測データが例年より少なかったため、基準日前後1日を含めた3日間の観測値を作図に用いました。）。なお、図3-1の調査地点のうち、調査基準日（8月7日）と基準日の前後1日に調査が行われ、かつ測定深度が表層、中層、底層の基準水深（表層：水深1mまで、中層：水深の半分から±1m、底層：海底上1mまで）に合致した地点のみを白い点で示しています。

また、調査地点は、東京湾全域で位置的に偏りがあるため、クリギング法により、一定間隔の格子点に、近くの調査地点のデータを空間的に内挿補間することで作図しています（P.1参照）。

① 水温（図5-1）

水温分布を図5-1に示します。表層の水温は、湾奥から中央部にかけて27℃以上の高温域が広がっていました。中層では、湾口の横須賀市沖から湾央の扇島沖にかけて、22℃程度と低くなっていました。底層では、平成27年くらいからの水温上昇の傾向がさらに進行し、湾奥・沿岸部周辺での昇温が顕著となっています。

② 塩分（図5-2）

塩分分布を図5-2に示します。表層・中層・底層の塩分は、深くなるに従いその傾向は弱まっていますが、低塩分域が荒川河口付近から西岸（横浜方面）にかけて広がっており、令和6年と同様、例年より全体的に低塩分となっていました。

③ 溶存酸素量（DO）（図5-3）

表層のDOは、羽田沖や多摩川、隅田川河口付近が11mg/L以上と高く、広い範囲で6mg/Lを上回りました。中層では、扇島沖付近から横須賀市の湾央にかけて3mg/L以下の貧酸素水塊が存在していました。底層では、一部、湾奥部に貧酸素化が解消されているように見える領域がありますが、躍層が底層付近にあり、貧酸素水塊が海底直上に薄く広がっており、見かけ上酸素濃度が上昇しているように見えることを反映したものであり、貧酸素化が解消されていたわけではないようです。

④ 化学的酸素要求量（COD）（図5-4）

化学的酸素要求量（COD）分布を図5-4に示します。表層のCODは、湾奥部で高い値を示し、湾口部へ向かって減少する順圧的な分布と東側で低く、西側で高い傾圧的な分布が重なっているような状況が見られました。中層では、東側が低く、西側が高い傾圧的な傾向が見られ、底層では、湾奥部が高く湾口部と湾央部が低い順圧的な傾向が見られました。中層・表層での傾圧的な分布は、CODの高い淡水流入とCODの低い外洋水の貫入が影響していると考えられます。

⑤ 透明度（図5-5）

透明度分布を図5-5に示します。透明度は、東京、川崎、湾奥の千葉の沿岸部では透明度が低く、湾口部に向かって、高くなる分布を示し、令和4-5年よりも全体として改善傾向に見える令和6年の分布に近い値が見られました。

5-2. 過去との比較

平成 21 年から令和 7 年までの 8 月の水温、塩分、溶存酸素量 (DO) の調査結果を図 5-6、図 5-7、図 5-8 に示します。なお、平成 26 年と令和 3 年は一斉調査を 9 月に実施したことから、図は掲載していません。また、令和元年と 6 年の調査については、基準日における観測データが例年より少ないため、基準日前後 1 日を含めた 3 日間の観測値を用いて平均的な状況を表す図 (平均図) を作図して示しています。平均図はより多くの測定点のデータを用いるため空間解像度は上がりますが、刻々と移動する水塊の挙動が平均化されるため、単日の観測結果による水塊の分布範囲と異なって見える場合があることにご留意ください。

① 水温 (図 5-6)

水温の鉛直分布は、多くの観測年において表層から中層、底層へと深度を増すごとに低温となる傾向にあり、成層構造の形成が見られます。

令和 7 年の表層水温は、東京湾全域で 26 °C 以上を示し、令和 4 年から継続で同様の傾向が見られます。中層では、湾口部から湾奥部の水深が深い海域で水温が低く、東京側の沿岸部及び湾奥部が高くなっている平成 22 年、24 年、30 年、令和元年、4 年、5 年、6 年に近い分布が見られました。底層では、湾口部から湾奥部に低い水温の分布が見られ、令和 7 年にはその範囲が縮小していますが、平成 22 年、30 年、令和 4 年、5 年、6 年に近い分布が見られました。

② 塩分 (図 5-7)

塩分の鉛直分布については、水温と同じく多くの観測年において顕著な成層構造が見られ、表層から中層、底層へ深度を増すごとに高い値を示す傾向があります。

塩分の水平分布については、表層で湾口付近で高く、河川の影響などを受けやすい湾奥・西部沿岸で低い傾向があります。特に、隅田川と荒川の河口付近はほぼ全ての年の表層において、周囲に比べて低塩分の水塊が観測されています。

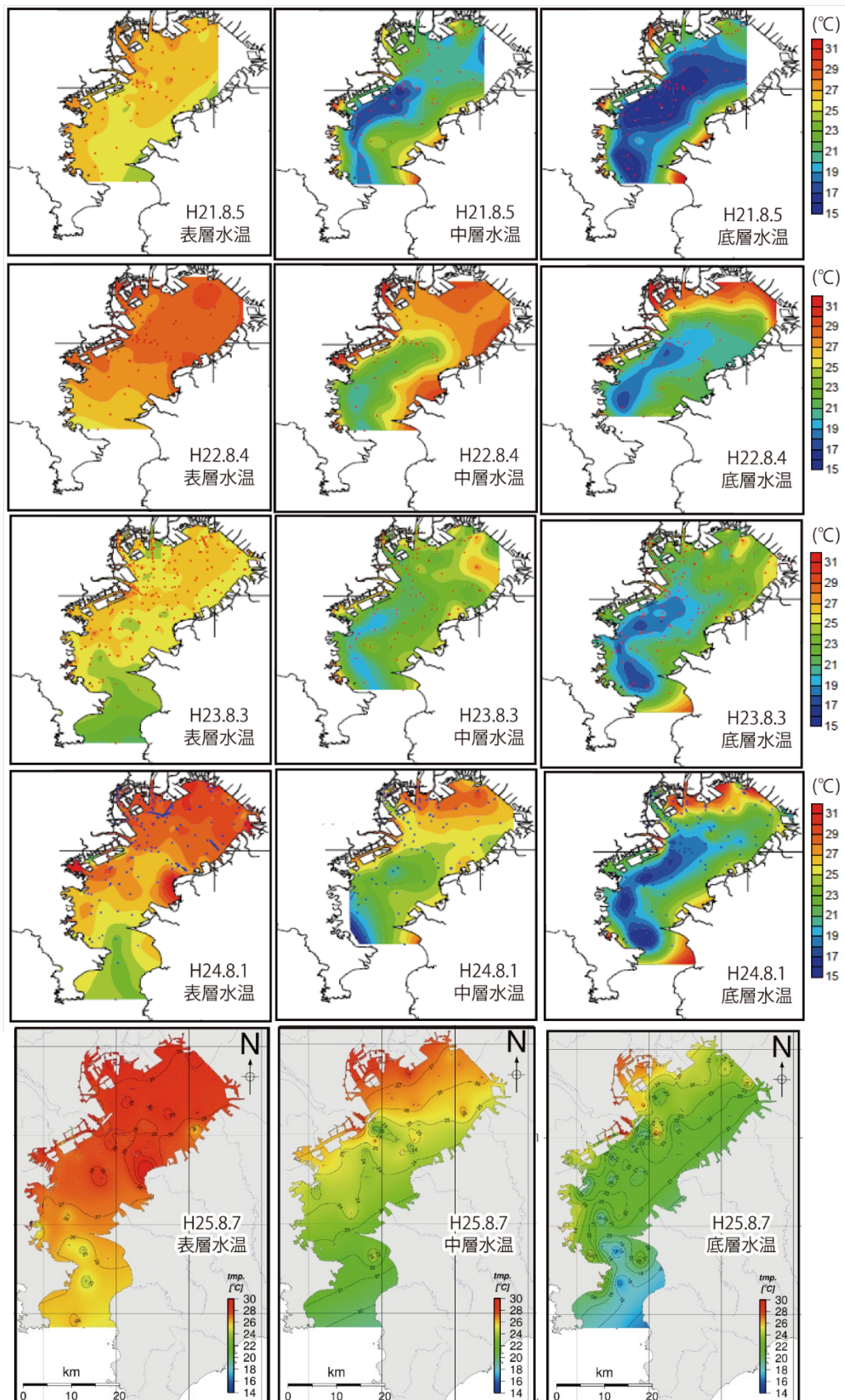
令和 7 年の表層・中層・底層の塩分は、例年と比べて低塩分で、令和 6 年と同様の傾向となりました。この原因は、黒潮蛇行終焉による高塩分である外洋水の貫入が弱くなったことに起因している可能性があります。

③ 溶存酸素量 (DO) (図 5-8)

例年表層ではごく一部の観測点、一部の年を除き、6 mg/L を上回っています。底層では、ほぼ全ての年において、湾奥部から湾奥部にかけて、3 mg/L 以下の貧酸素水塊が存在していました。

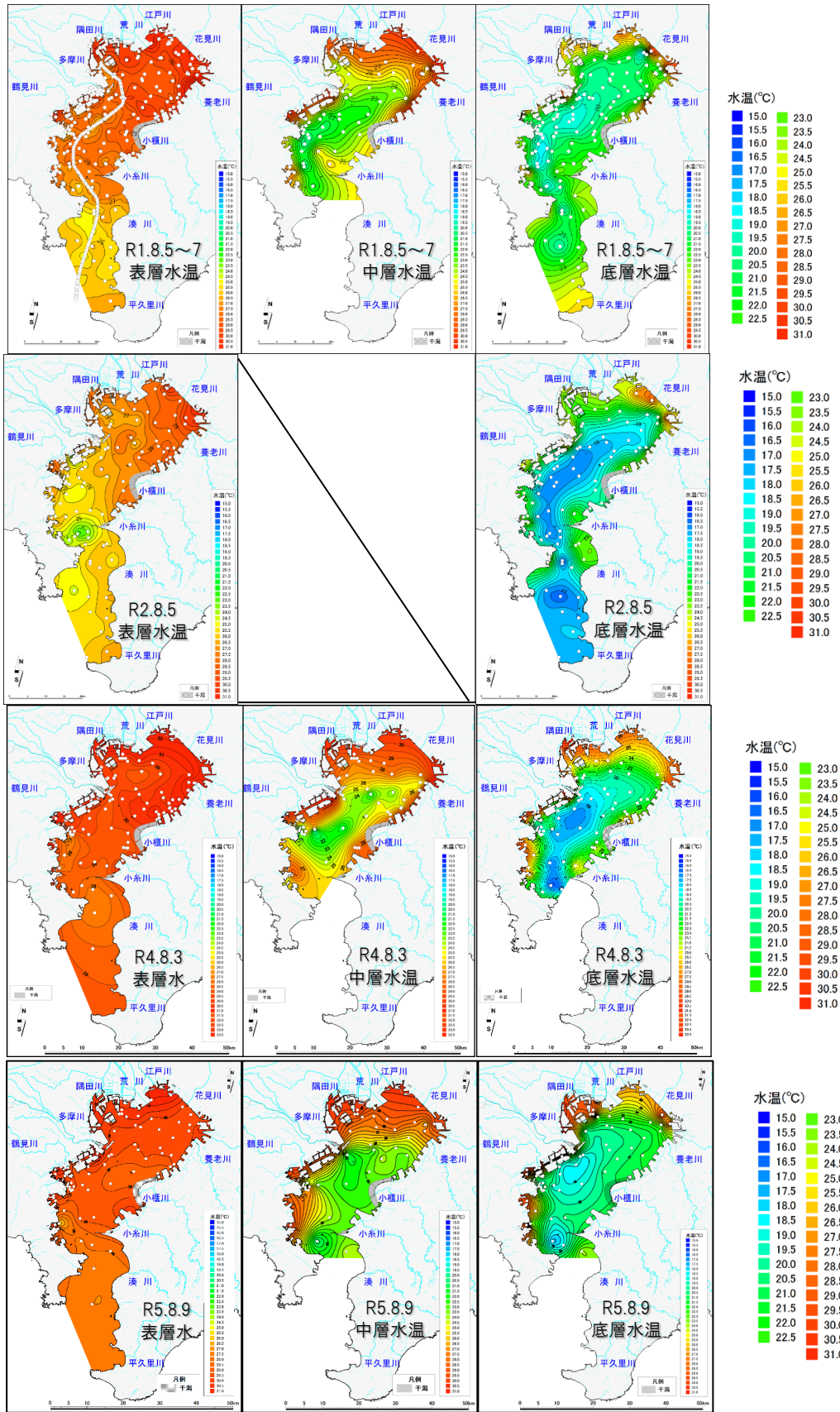
令和 7 年は、表層においては例年と同様に広い範囲で 6 mg/L を上回りました。底層においては、底層であっても、沿岸部での酸素が高い領域がありますが、3 mg/L 以下 (貧酸素) の水塊の南限が南下してきているように見えます。

なお、令和 7 年の結果より、DO の濃度コンターの描画において、高 DO を青、低 DO を赤としていることにご留意ください。



表層：水深1mまで、中層：水深の半分から±1m、底層：海底上1mまでを示す。(次頁へ続く。)

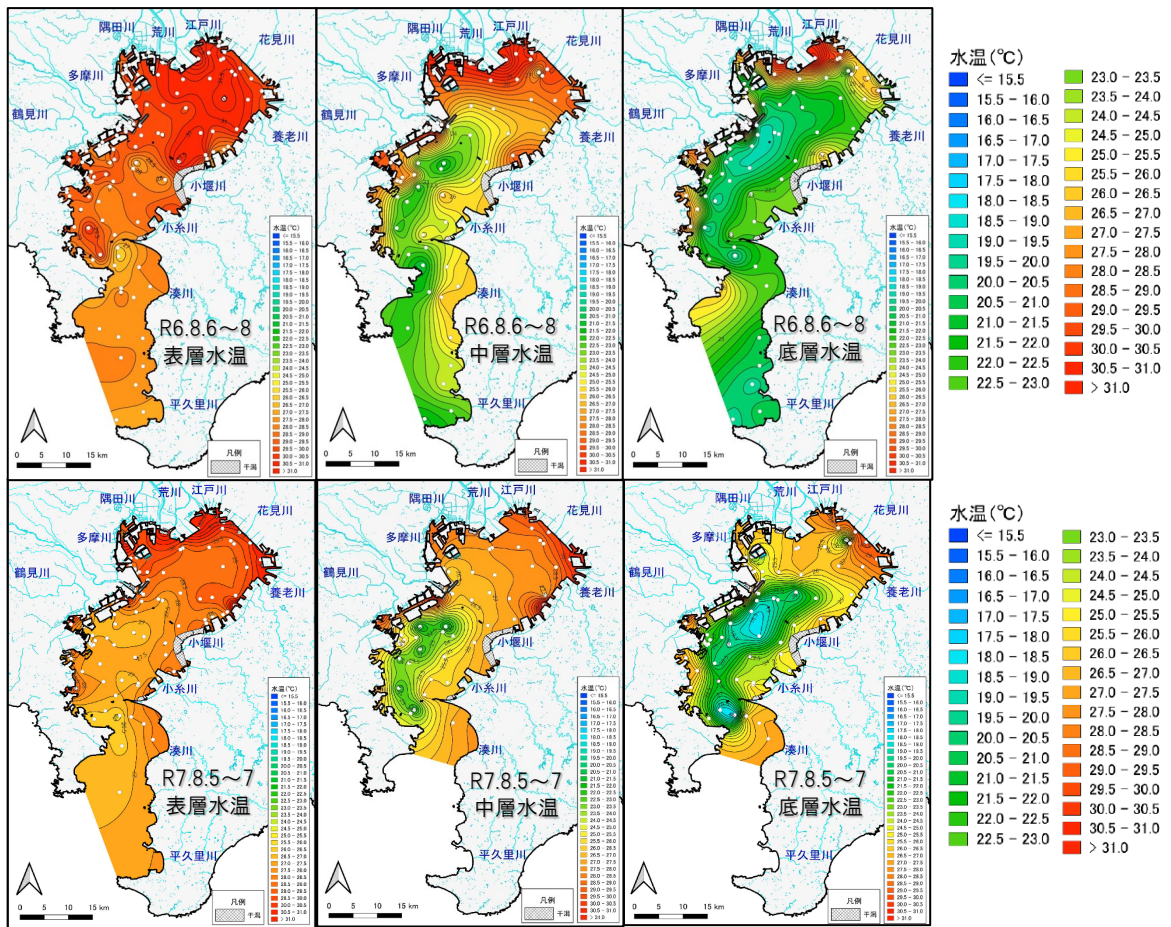
図 5-6a 平成 21 年から平成 25 年 8 月における東京湾の水温の状況



表層：水深1 mまで、中層：水深の半分から±1 m、底層：海底上1 mまでを示す。(次頁へ続く。)

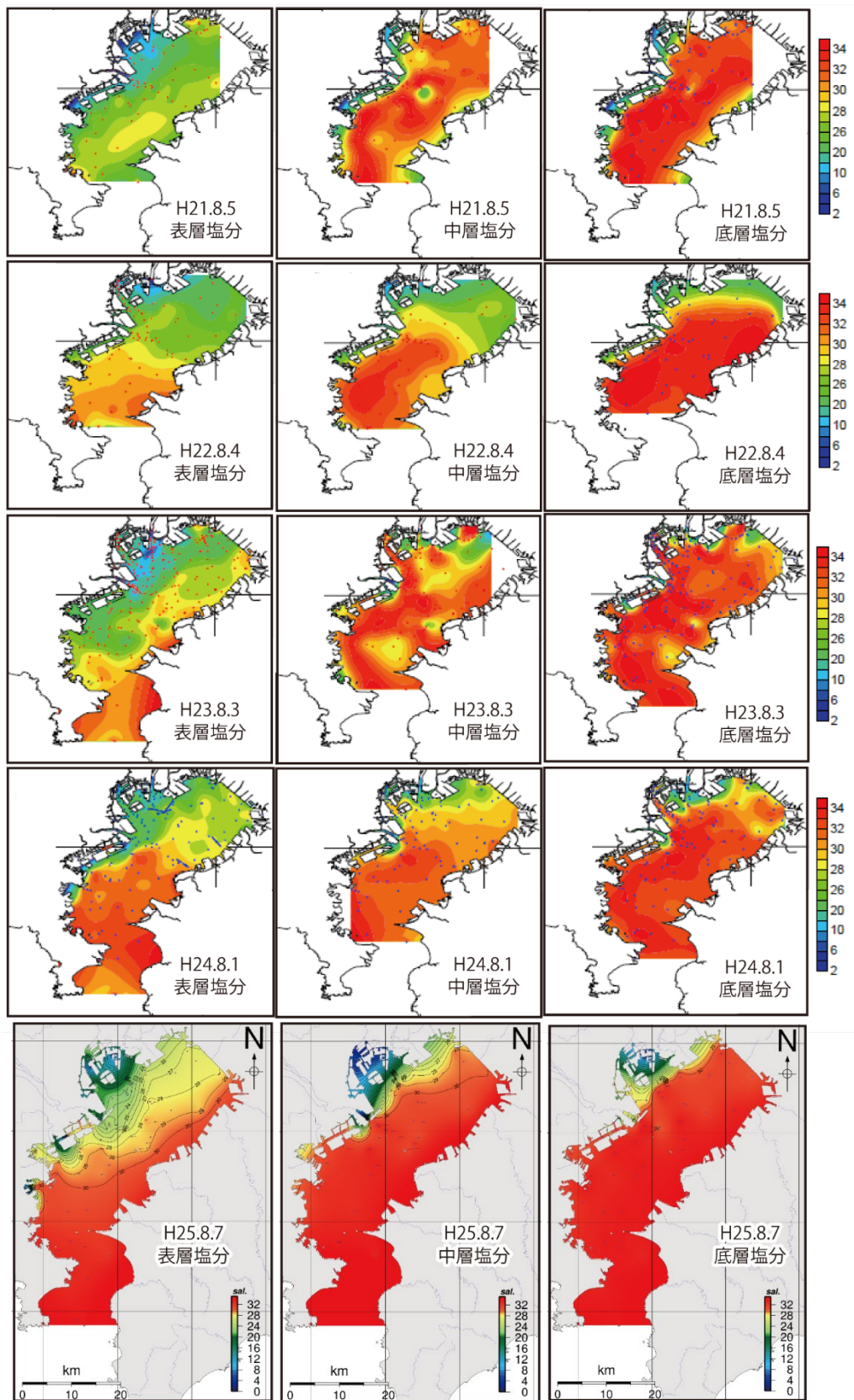
なお、令和元年については、3日間にかけての水温を示す。

図 5-6c 令和元年から令和5年(令和3年を除く)8月における東京湾の水温の状況



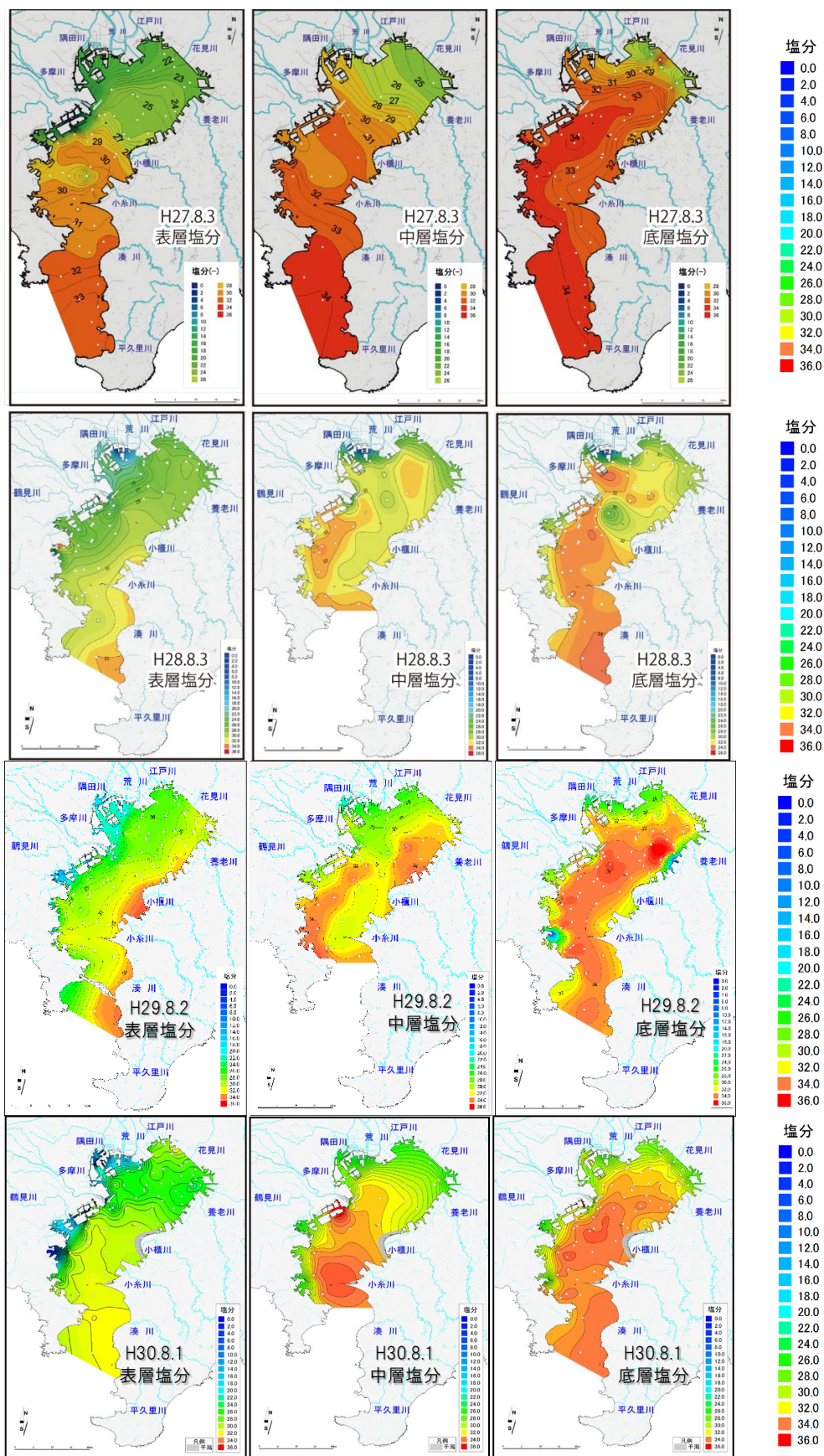
表層：水深 1 m まで、中層：水深の半分から±1 m、底層：海底上 1 m までを示す。

図 5-6d 令和 6 年、令和 7 年 8 月における東京湾の 3 日間にかけての水温の状況



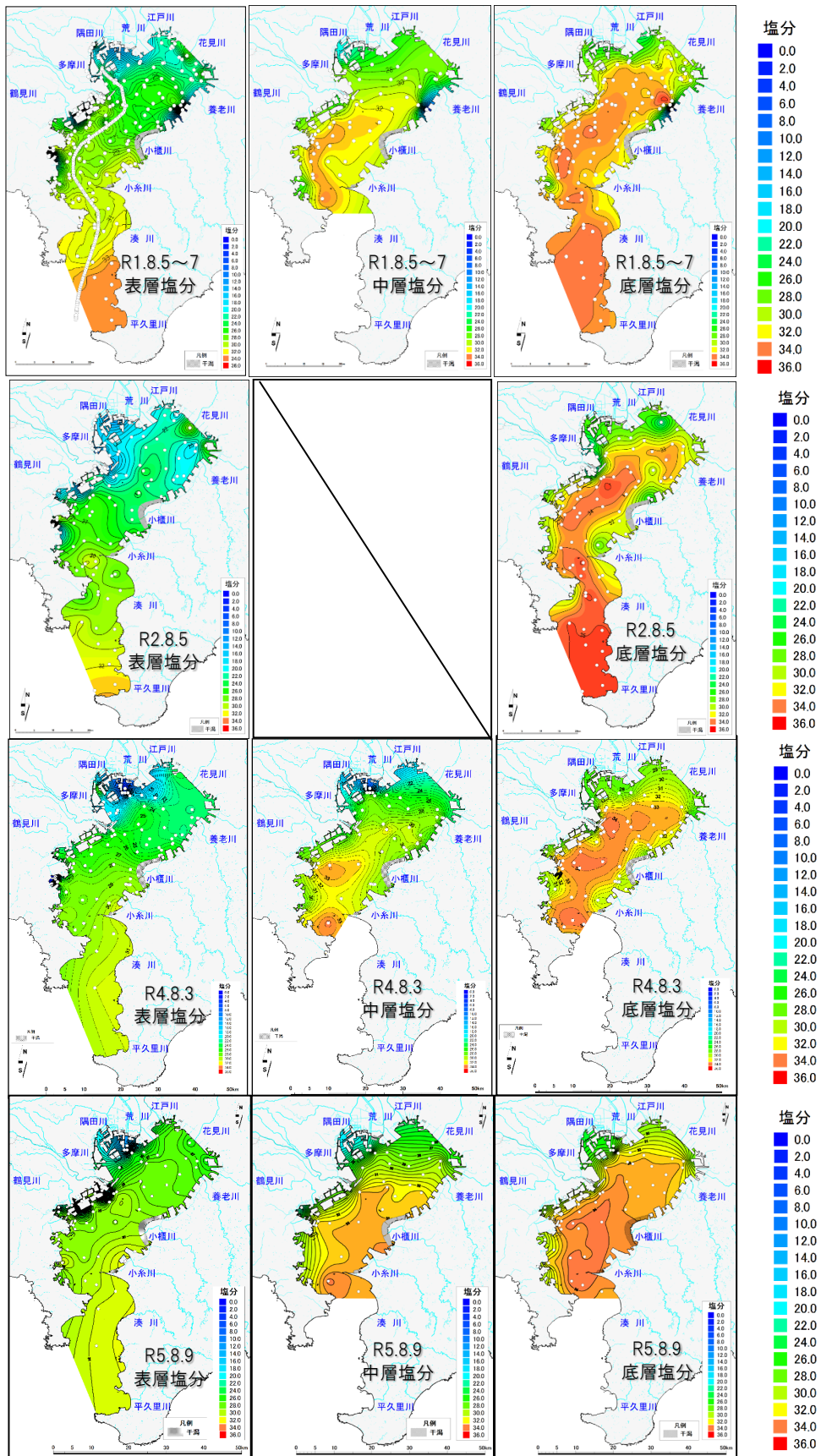
表層：水深1mまで、中層：水深の半分から±1m、底層：海底上1mまでを示す。(次頁へ続く。)

図 5-7a 平成 21 年から平成 25 年 8 月における東京湾の塩分の状況



表層：水深1mまで、中層：水深の半分から±1m、底層：海底上1mまでを示す。(次頁へ続く。)

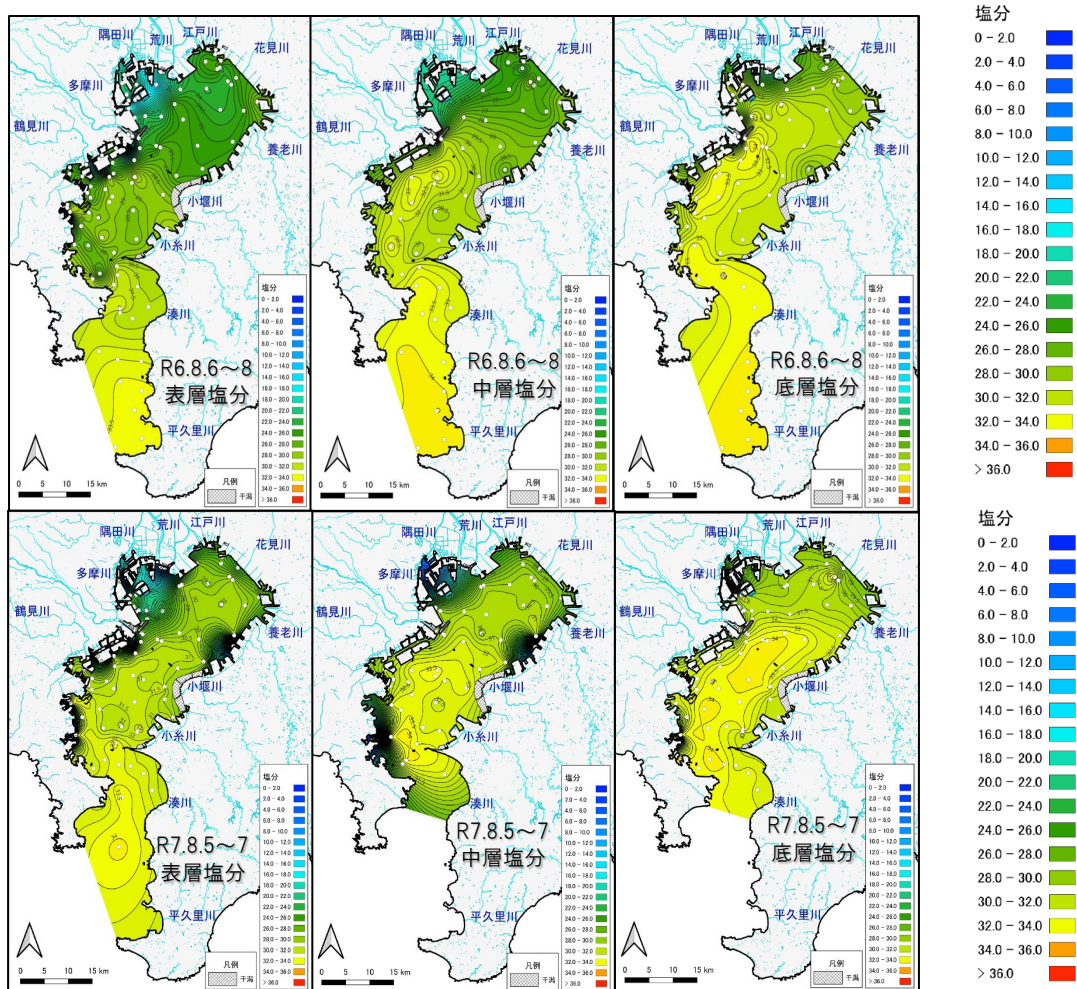
図 5-7b 平成 27 年から平成 30 年(平成 26 年を除く) 8 月における東京湾の塩分の状況



表層：水深 1 m まで、中層：水深の半分から±1 m、底層：海底上 1 m までを示す。

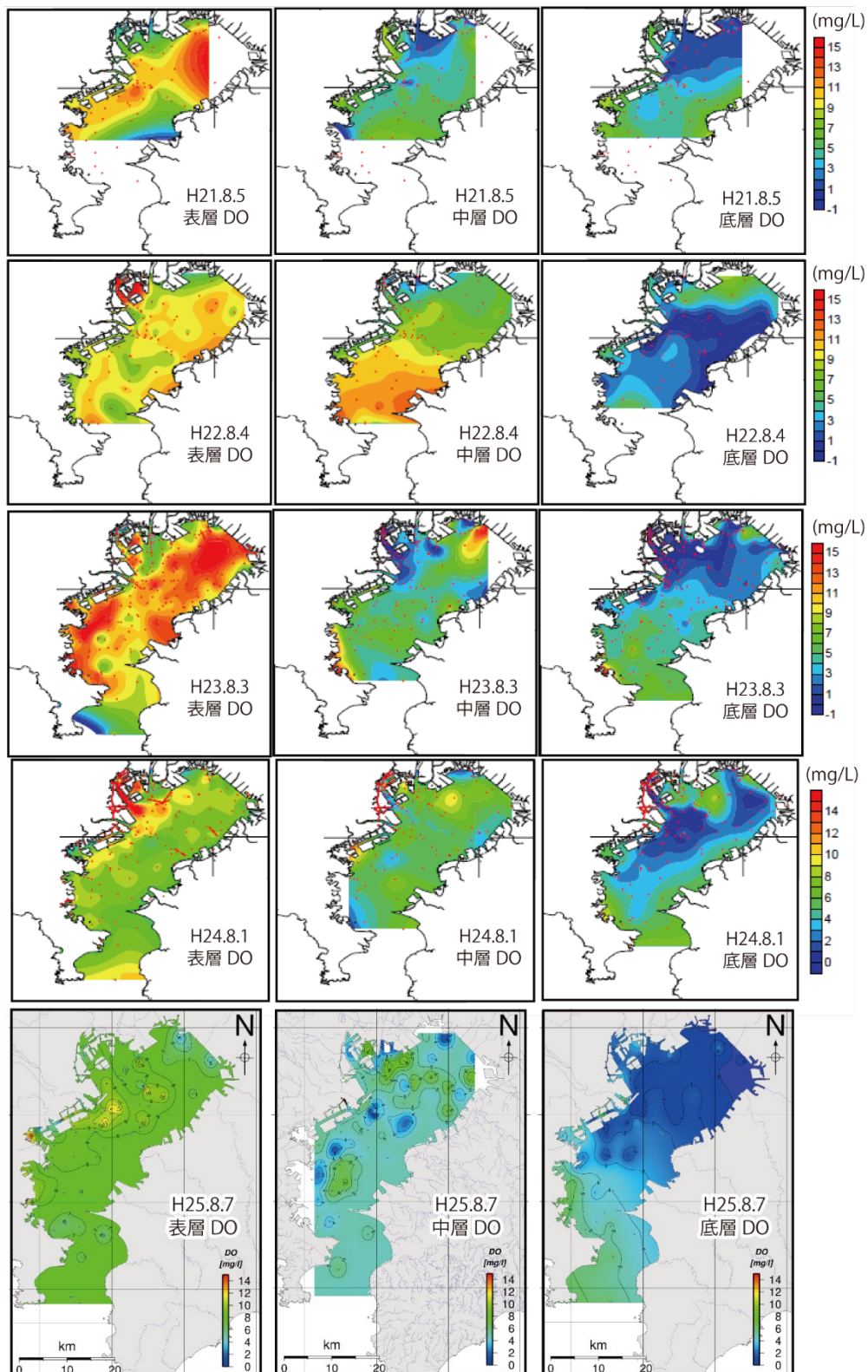
なお、令和元年については、3 日間にかけての水温を示す。

図 5-7c 令和元年から令和 5 年(令和 3 年を除く) 8 月における東京湾の塩分の状況



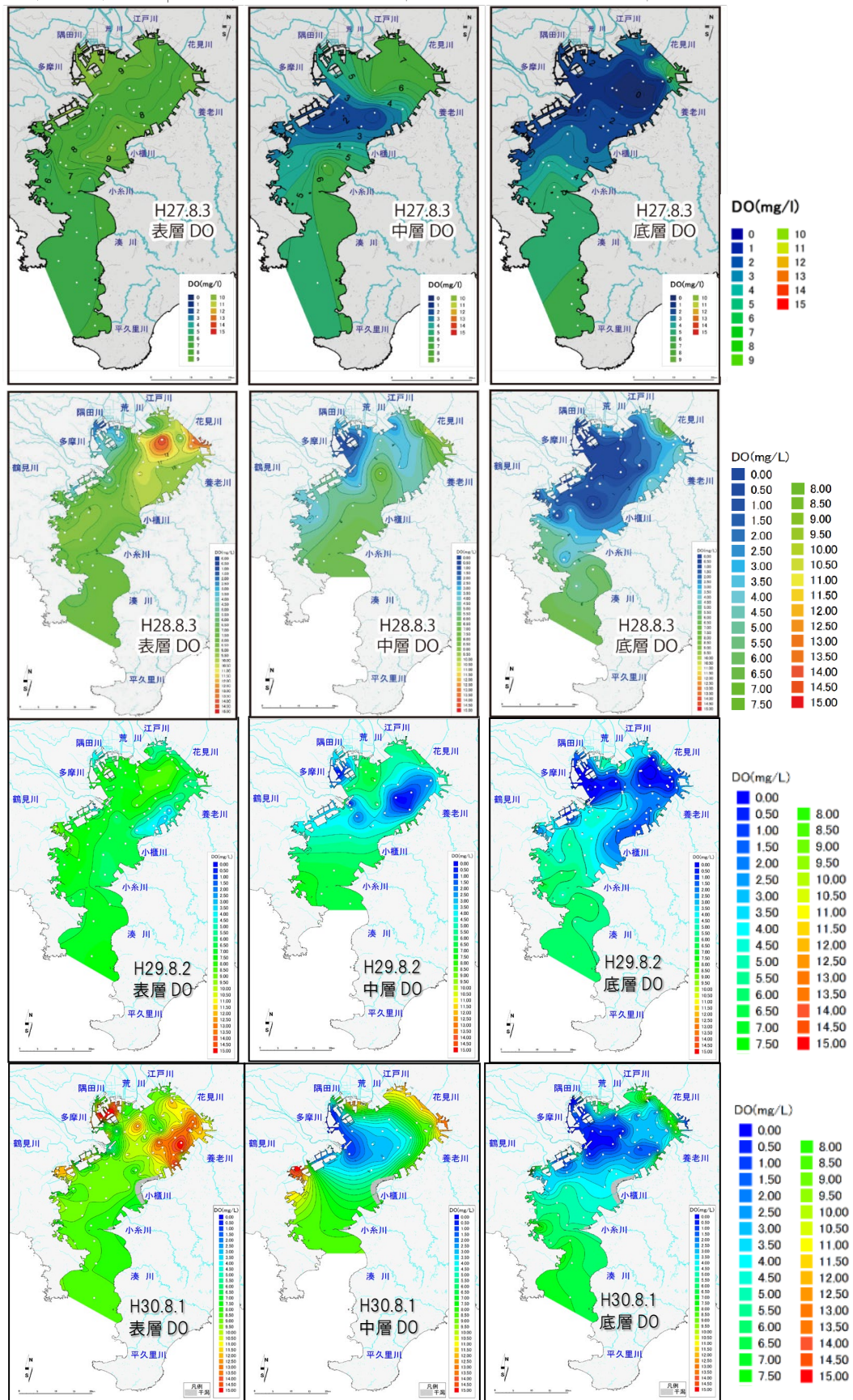
表層：水深1 mまで、中層：水深の半分から±1 m、底層：海底上1 mまでを示す。

図 5-7d 令和6年、令和7年8月における東京湾の3日間にかけての塩分の状況



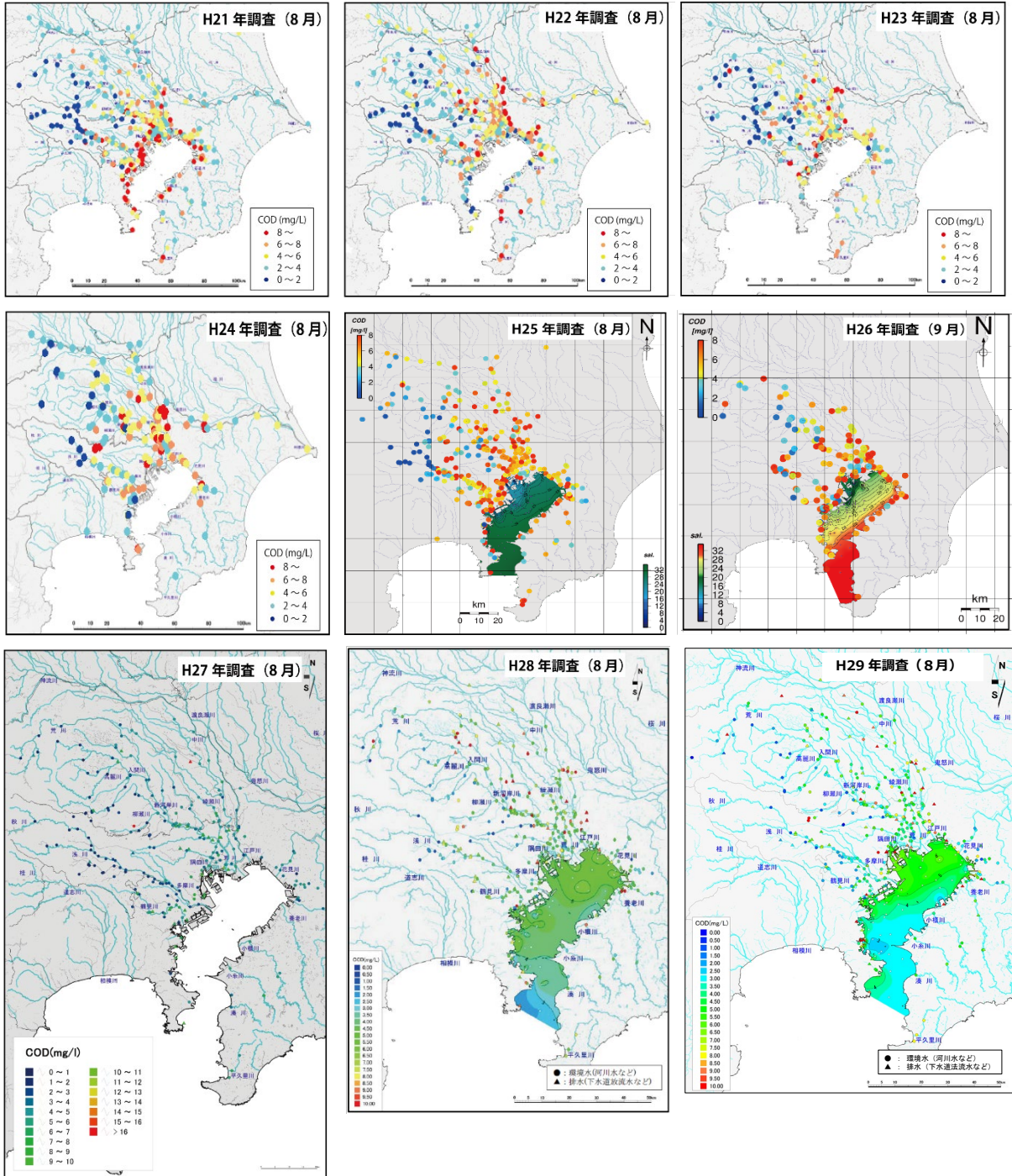
表層：水深 1 m まで、中層：水深の半分から±1 m、底層：海底上 1 m までを示す。(次頁へ続く。)

図 5-8a 平成 21 年から平成 25 年 8 月における東京湾の DO の状況



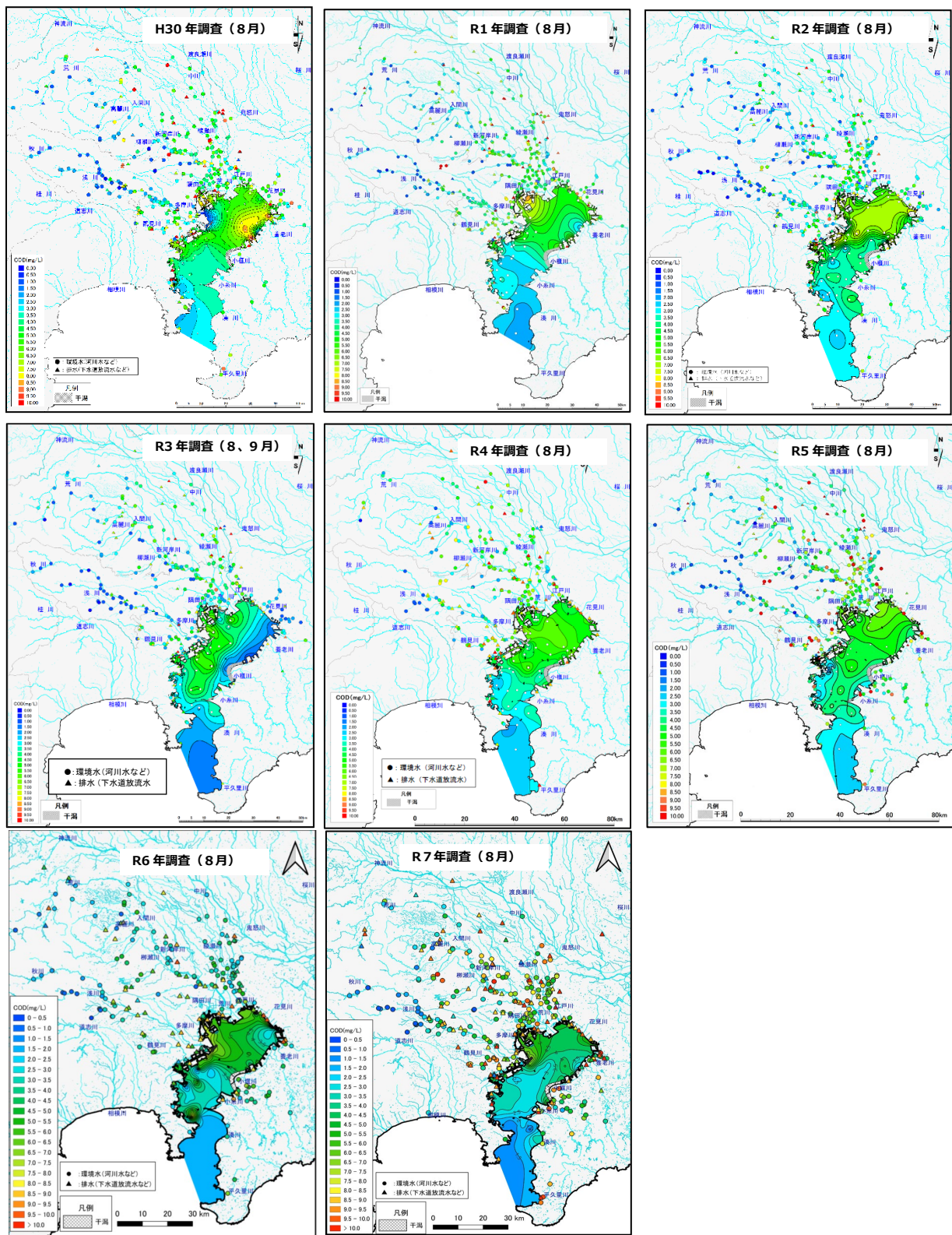
表層：水深1 mまで、中層：水深の半分から±1 m、底層：海底上1 mまでを示す。(次頁へ続く。)

図 5-8b 平成 27 年から平成 30 年(平成 26 年を除く) 8 月における東京湾の DO の状況



調査基準日前後の調査結果を含む。(次頁へ続く。)

図 6-2a 平成 21 年～平成 29 年（平成 26 年は 9 月、その他は 8 月）の
COD 観測結果の比較



調査基準日前後の調査結果を含む。

図 6-2b 平成 30 年～令和 7 年（令和 3 年は 8 月及び 9 月、その他は 8 月）の COD 観測結果の比較

7. 東京湾に流入する主な河川の状況

東京湾及びその流域図を図 7-1 に示します。東京湾の流域には、東京湾に接する千葉県、東京都、神奈川県のほか、埼玉県が広い面積を持っており、茨城県、山梨県の一部も含まれます。東京湾流域の河川は、陸域から東京湾へ淡水とともに物質を供給する役割を持っており、流域の環境は東京湾の水環境に影響を与えています。東京湾に流入する主な河川としては多摩川、荒川、利根川、鶴見川水系があげられます。

令和 7 年度東京湾環境一斉調査では、河川等の水質調査のデータを収集しました。東京湾流域における主な河川の水温、流量、化学的酸素要求量 (COD)、溶存酸素量 (DO)、透視度の状況を、水系ごとに図 7-2 から図 7-31 に示します。

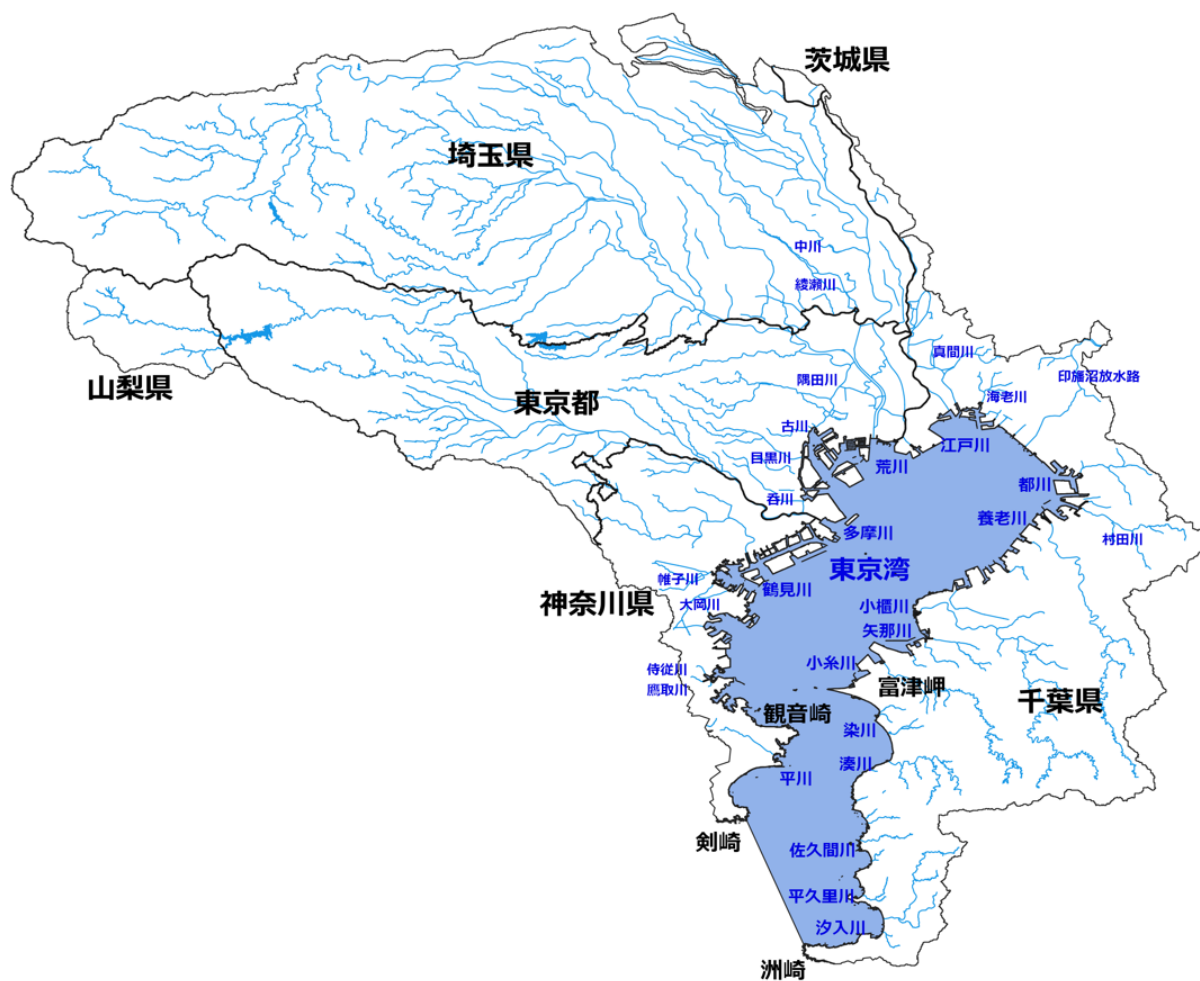


図 7-1 東京湾及びその流域図

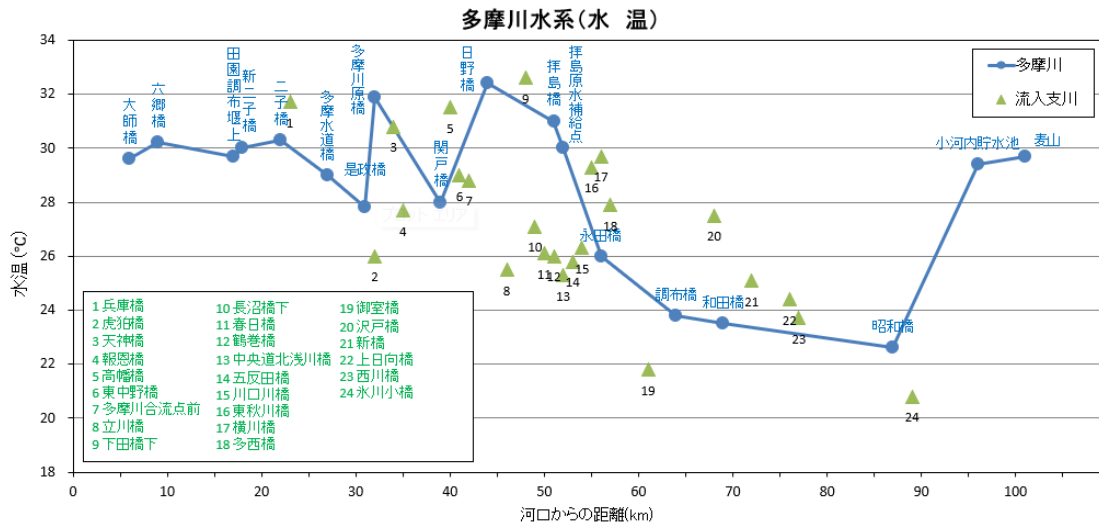


図 7-3 多摩川水系における水温（8月）と河口からの距離の関係

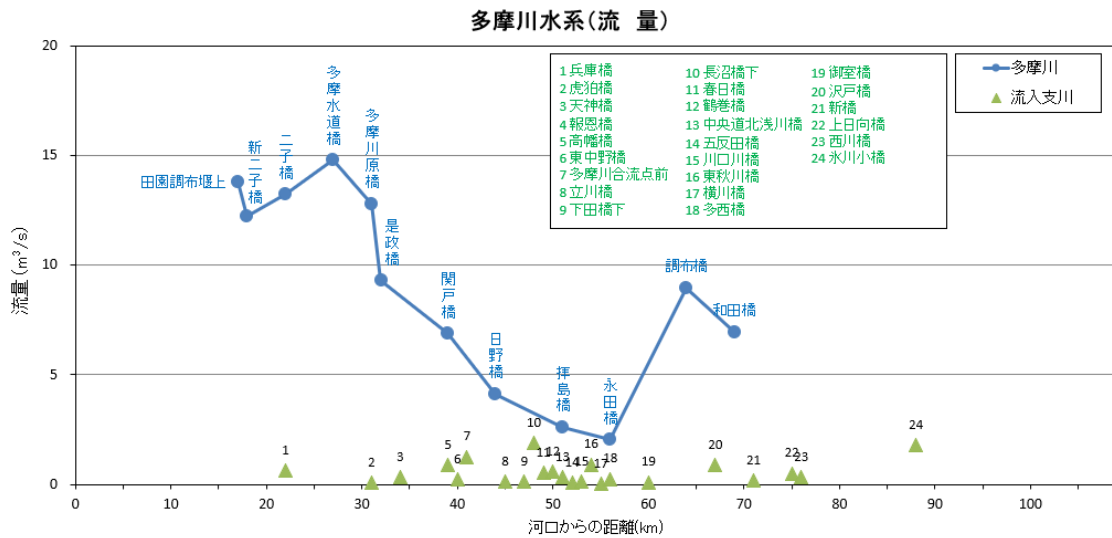


図 7-4 多摩川水系における流量（8月）と河口からの距離の関係

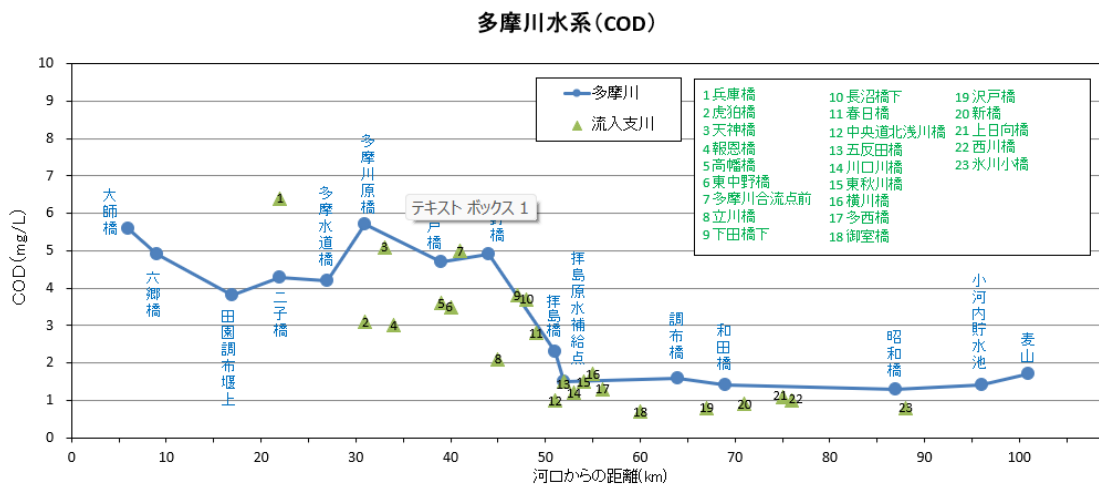


図 7-5 多摩川水系における COD（8月）と河口からの距離の関係

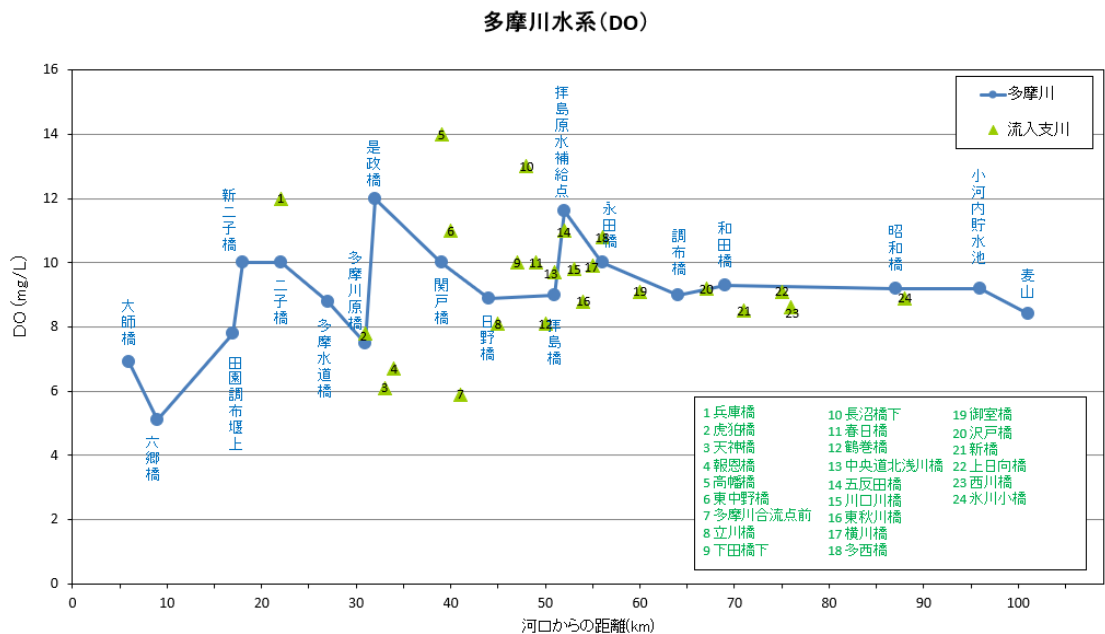


図 7-6 多摩川水系における DO (8月) と河口からの距離の関係

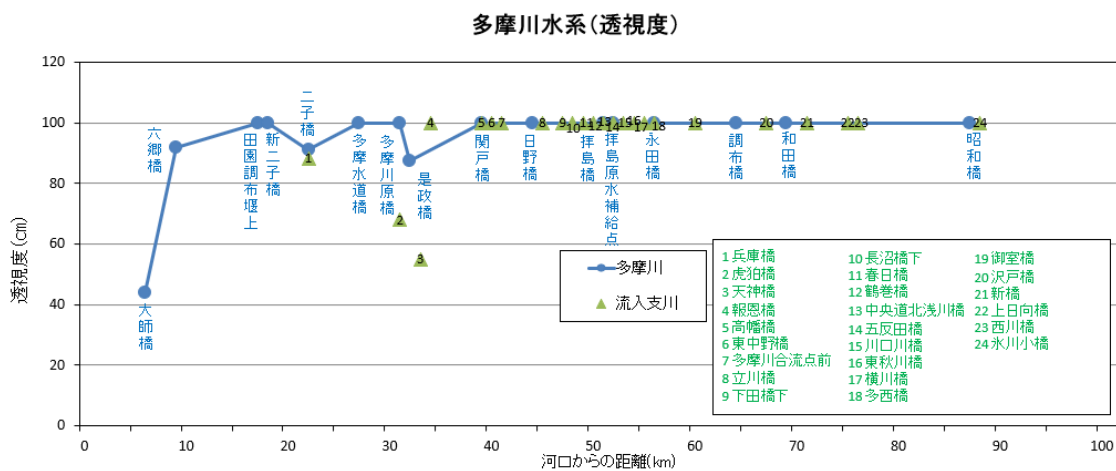


図 7-7 多摩川水系における透視度 (8月) と河口からの距離の関係

(2) 荒川水系

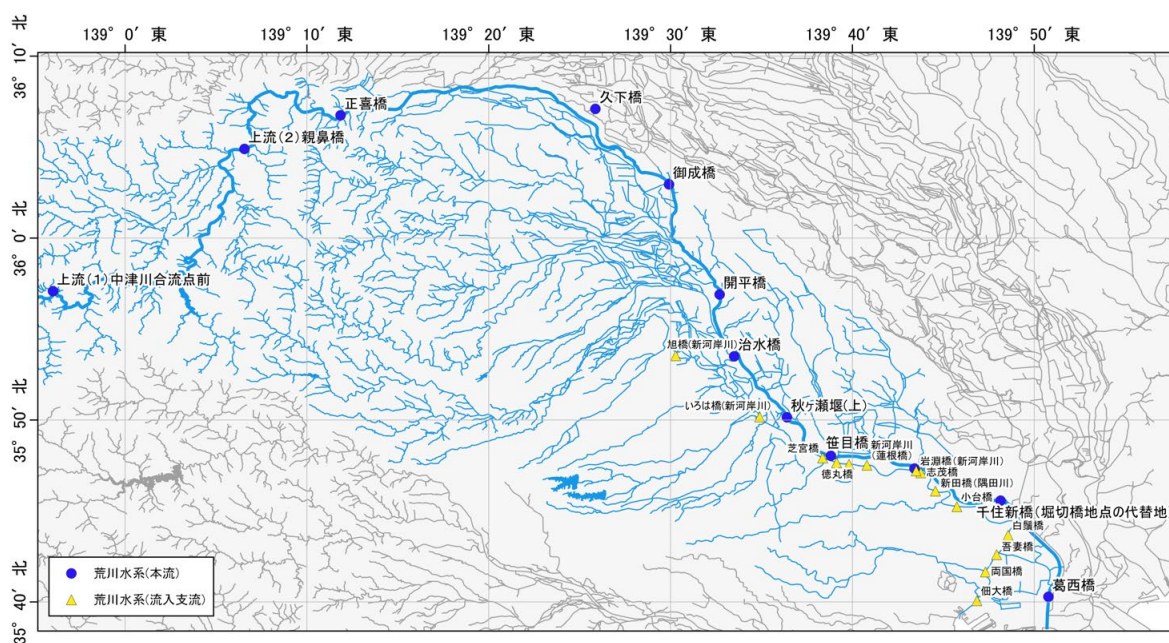
荒川水系において、水温は、荒川では、上流から下流に向かって 20 °C から 31 °C 程度に上昇し、隅田川、新河岸川では、上流から下流に向かって 24 °C から 32 °C 程度に上昇していました。

流量は、計測地点が少ないですが、上流から下流に向かって 12 m³/s から 20 m³/s 程度に上昇し、隅田川、新河岸川では、上流から下流に向かって 1 m³/s から 31 m³/s 程度に上昇していました。

COD は、荒川では、上流から下流に向かって 2 mg/L から 9 mg/L 程度に上昇し、隅田川、新河岸川では、上流から下流に向かって 2 mg/L から 7 mg/L 程度に上昇していました。

DO は、荒川では、上流から下流に向かって 9 mg/L から 14 mg/L 程度に上昇し、隅田川、新河岸川では、上流から下流に向かって 8 mg/L から 5 mg/L 程度の値でした。

透視度は、荒川では、上流から中流では最大透視度の 100 cm、下流で 20 cm 程度に減少し、隅田川、新河岸川では、上流から下流に向かって最大透視度の 100 cm から 40 cm 程度に減少していました。



背景地図：国土地理院発行の「数値地図（国土基本情報）」をもとに加工、国土交通省国土政策局「国土数値情報（河川データ）」をもとに編集・加工

図 7-8 荒川水系流域における調査点図

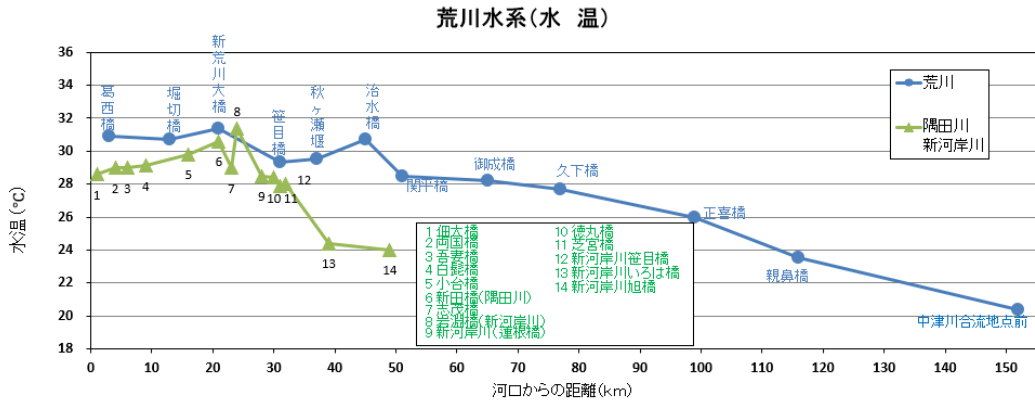


図 7-9 荒川水系における水温（8月）と河口からの距離の関係

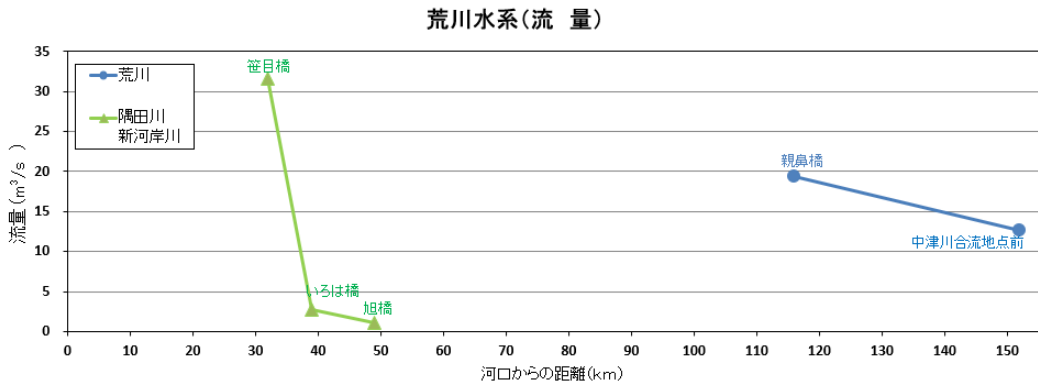


図 7-10 荒川水系における流量（8月）と河口からの距離の関係

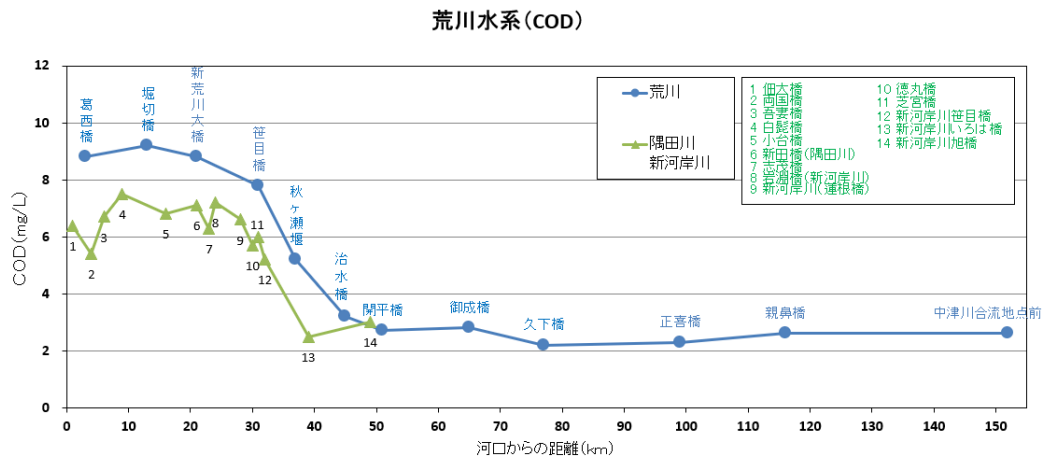


図 7-11 荒川水系における COD（8月）と河口からの距離の関係

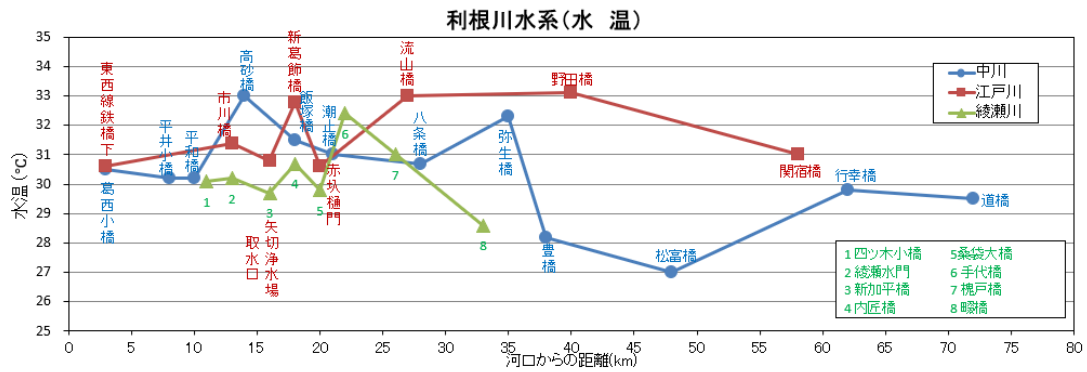


図 7-15 利根川水系①(中川、江戸川、綾瀬川)における水温(8月)と河口からの距離の関係

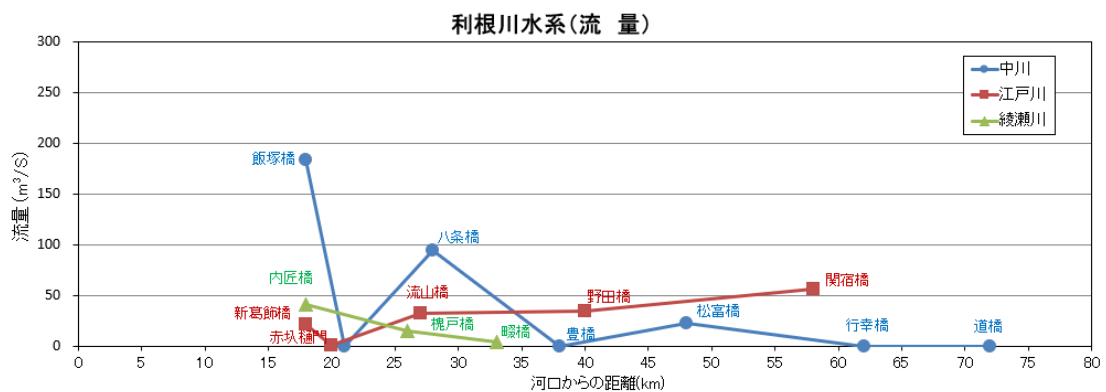


図 7-16 利根川水系①(中川、江戸川、綾瀬川)における流量(8月)と河口からの距離の関係

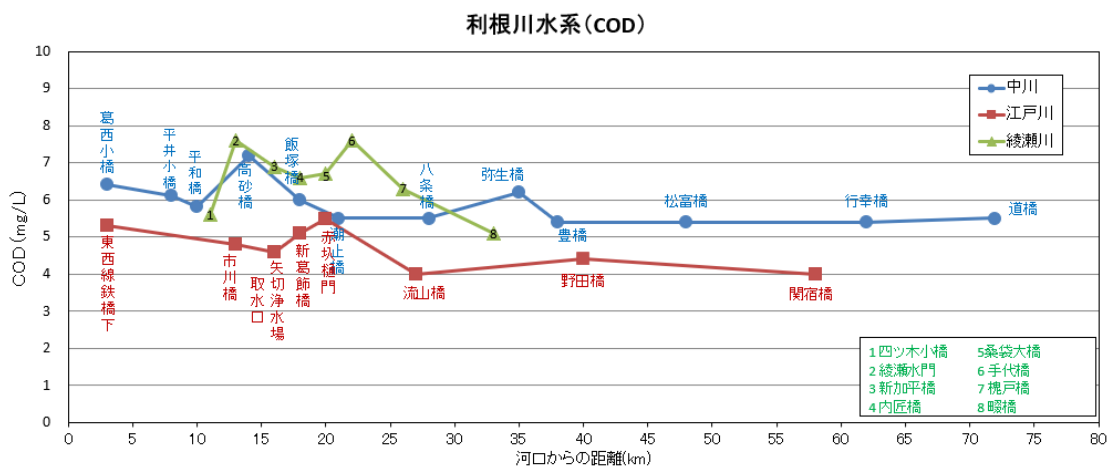


図 7-17 利根川水系①(中川、江戸川、綾瀬川)におけるCOD(8月)と河口からの距離の関係

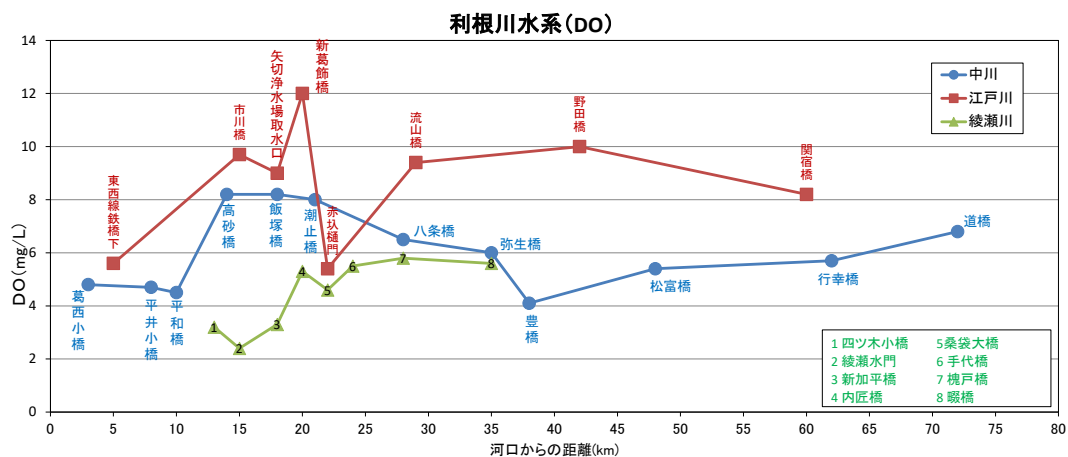


図 7-18 利根川水系①（中川、江戸川、綾瀬川）における DO（8月）と河口からの距離の関係

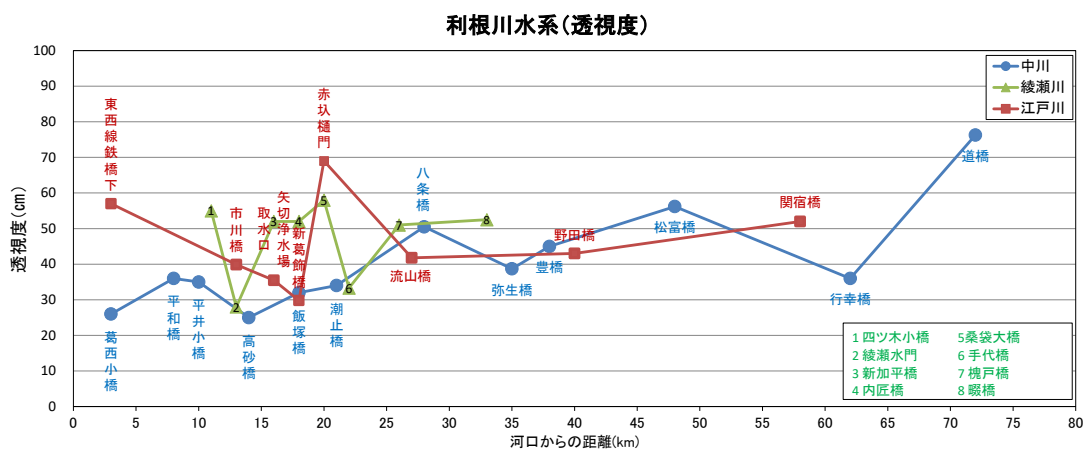


図 7-19 利根川水系①（中川、江戸川、綾瀬川）における透視度（8月）と河口からの距離の関係

(4) 鶴見川水系

鶴見川水系において、水温は、本流では、上流から下流に向かって 30 °C程度で、支流では、29 °Cから 32 °C程度の値でした。

流量は、本流では、上流から下流に向かって 2 m³/s から 4 m³/s 程度に上昇し、支流では、0.1 m³/s から 2 m³/s 程度の値でした。

COD は、本流では、上流から下流に向かって 7 mg/L から 9 mg/L 程度に上昇し、支流では、9 mg/L から 3 mg/L 程度の値でした。

DO は、本流では、上流から下流に向かって 12 mg/L から 5 mg/L 程度に減少し、支流では、4 mg/L から 7 mg/L 程度の値でした。

透視度は、本流では、上流では最大透視度の 100 cm を記録し、河口域で 70 cm 程度に減少していました。支流では、早渕川の 60 cm 以外は、最大透視度の 100 cm でした。



背景地図：国土地理院発行の「数値地図（国土基本情報）」をもとに加工、国土交通省国土政策局「国土数値情報（河川データ）」をもとに編集・加工

図 7-20 鶴見川水系流域における調査点図

鶴見川水系(水 温)

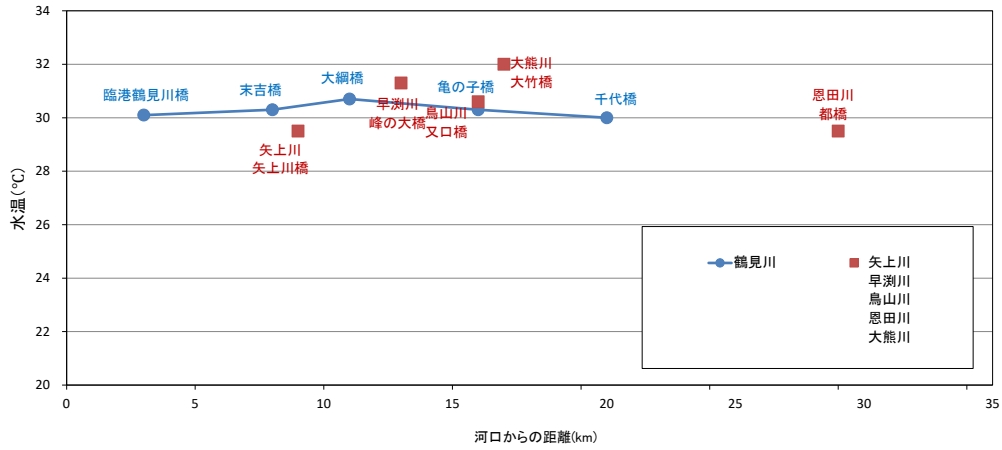


図 7-21 鶴見川水系における水温（8月）と河口からの距離の関係

鶴見川水系(流 量)

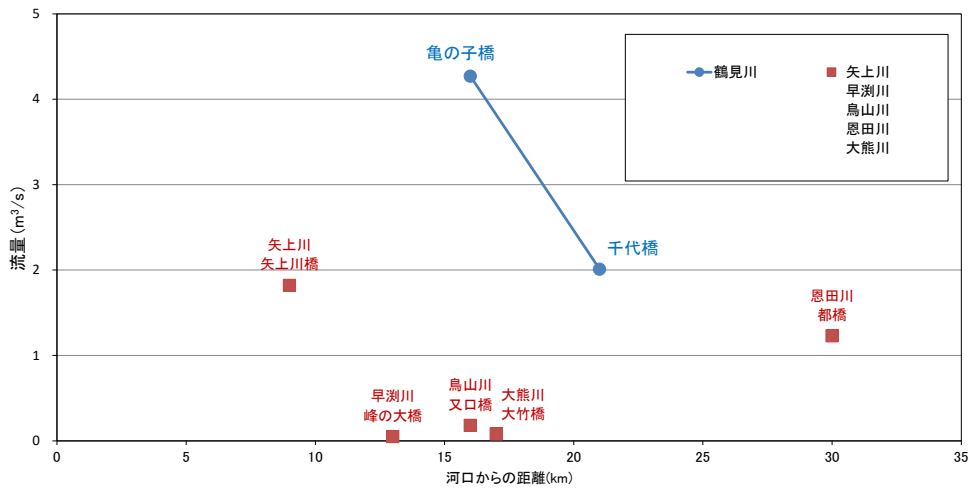


図 7-22 鶴見川水系における流量（8月）と河口からの距離の関係

鶴見川水系(COD)

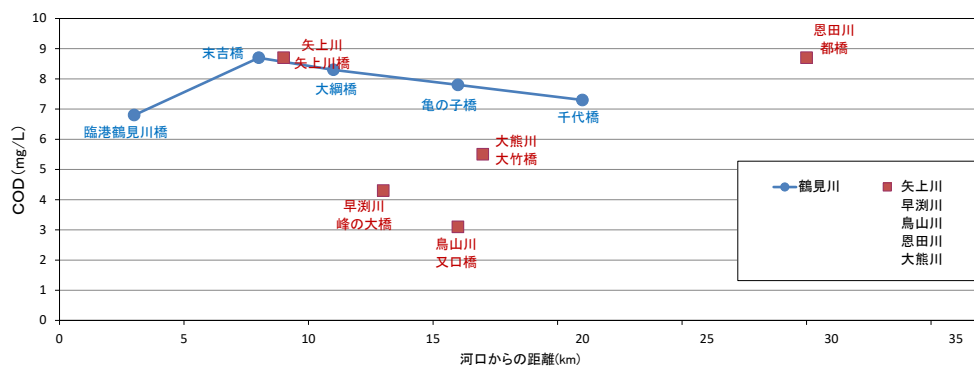


図 7-23 鶴見川水系における COD（8月）と河口からの距離の関係

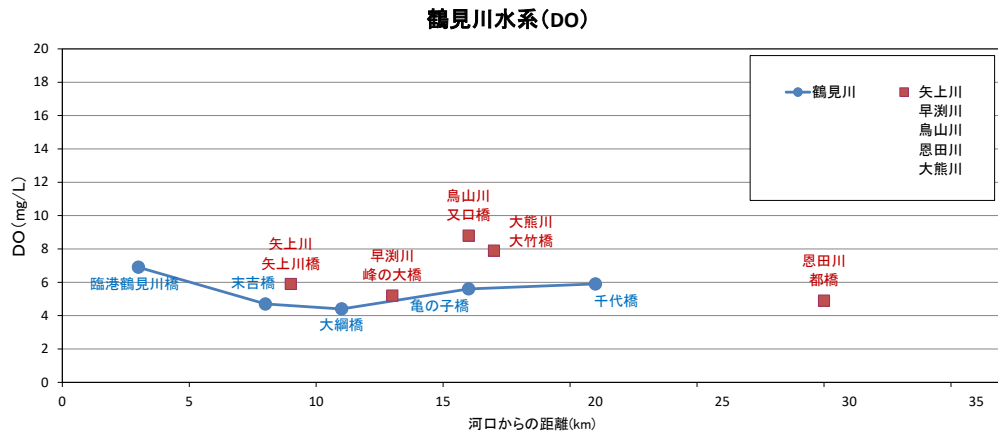


図 7-24 鶴見川水系における DO (8月) と河口からの距離の関係

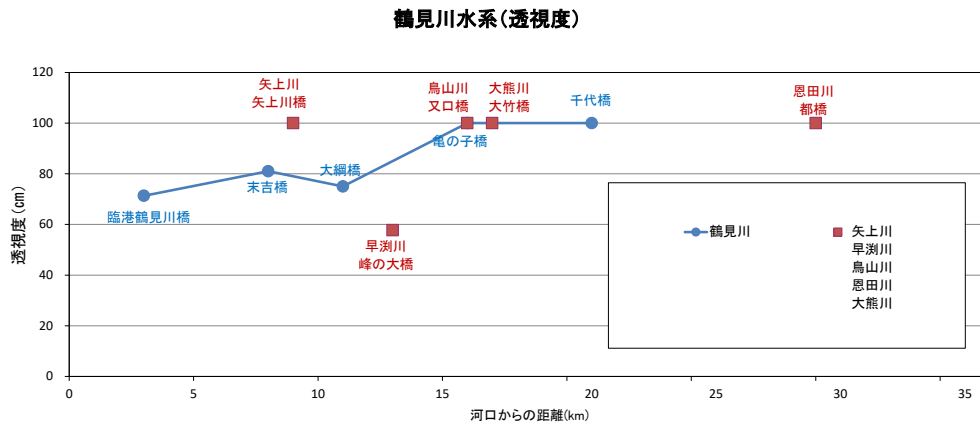


図 7-25 鶴見川水系における透視度 (8月) と河口からの距離の関係

8. 生物調査の実施実績

令和7年度の東京湾環境一斉調査における生物調査では、干潟調査及びその他の調査が実施されました。調査参加機関のレポートに記載された参加状況を合算したところ、干潟調査（8-1）に、延べ224名が参加し、その他の調査（8-2）についても多くの機関によって調査が行われており、大勢の参加者によって生物調査が実施されました。

8-1 干潟調査

(1) 干潟調査の概要

令和7年度は多摩川河口、浦安市日の出地先等の干潟を対象として調査が実施されました。また、より多くの方に東京湾を身近に感じてもらうため、昨年度に引き続き干潟調査の一環として「カニ生息一斉調査」も実施されました。

(2) 調査参加機関

令和7年度は、4団体から干潟調査の結果について報告があり（表8-1）、そのうちの2団体によりカニ生息一斉調査が実施されました。

表8-1 干潟生物調査の実施実績

報告書 番号	実施機関	調査場所	実施日
①	大田区環境マイスターの会	多摩川河口大田区側	6月26日 7月9日
②	浦安市三番瀬環境観察館	浦安市日の出地先	7月9日 7月10日 7月21日 8月3日 8月17日 8月22日 8月24日 9月6日
③	横浜港湾空港技術調査事務所 生物観察会 「横浜の海はいま？」	横浜港湾空港技術調査事務所 「潮彩の渚」	8月8日
④	横浜港湾空港技術調査事務所 江戸前アサリわくわく調査		7月24日

(3) 干潟調査の結果

令和7年度の干潟調査は、4団体により3地点で実施されました（図9-1）。その結果、18綱105種の生物の生息が確認されました（表9-2）。

さらに今回確認された生物種について、環境省レッドリスト2025（令和7年3月）及び環境省版海洋生物レッドリスト（平成29年3月）への掲載の有無を調べたところ、絶滅危惧Ⅱ類（VU）と評価される種は含まれていなかったものの、準絶滅危惧（NT）と評価される種が1種含まれていることが確認できました。また、生態系被害防止外来種リスト（環境省及び農林水産省、2016）への掲載の有無について調べたところ、特定外来生物は含まれていなかったものの、総合対策外来種が4種含まれていることがわかりました。



出典：海洋状況表示システム(<https://www.msil.go.jp>)、国土地理院（GSI）

図8-1 干潟調査の実施地点と確認された生物種

表8-2 干潟調査で確認された生物種

綱	科	種名		調査地域			環境省レッドリスト/ 海洋生物レッドリスト※	生態系被害防止 外来種リスト※
		和名	学名	東京	千葉	神奈川		
				多摩川 河口 大田区側	浦安市 日の出地先	潮彩の渚	カテゴリ	カテゴリ
鉢虫	オキクラガ	アカクラガ	<i>Chrysaora pacifica</i>		○			
	ミスクラガ	ミスクラガ	<i>Aurelia cf. coerulea</i>		○			
ヒドロ虫	ウミヒドラ	カイウミヒドラ	<i>Schuchertinia epiconcha</i>		○			
花虫	タテジマイソギンチャク	タテジマイソギンチャク	<i>Diadumene lineata</i>		○	○		
多毛	ゴカイ	ヤマトカワゴカイ	<i>Hediste diadroma</i>	○				
		アシナゴゴカイ	<i>Neanthes succinea</i>		○			
		-	-	○		○		
	イトゴカイ	-	-	○				
		イワムシ種群	-		○			
	ギボシイソメ	コアシギボシイソメ	<i>Scoletoma nipponica</i>		○			
		アミメオニスビオ	<i>Pseudopolydora bassarginensis</i>		○			
	チロリ	ヒガタチロリ	<i>Glycera macintoshi</i>		○			
		-	-		○			
		ミズヒキゴカイ	ミズヒキゴカイ	<i>Cirriformia tentaculata</i>			○	
	タマンキゴカイ	タマンキゴカイ種群	-		○			
	タマンキゴカイ	タマンキゴカイ	<i>Arenicola brasiliensis</i>		○			
	オフェリアゴカイ	オフェリアゴカイ	<i>Armandia cf. amakusaensis</i>		○			
裸喉	フサコケムシ	ナギサコケムシ	<i>Bugulina californica</i>		○			
(紐形動物門)	ヒモムシ類	-	-	○				
腹足	ムシロガイ	アラムシロガイ	<i>Reticunassa festiva</i>	○	○	○	絶滅のおそれのある地域個体群(LP)	
		ムシロガイ	<i>Niotha livescens</i>		○			
	アッキガイ	イボニシ	<i>Thais clavigera</i>		○	○		
		アカニシ	<i>Rapana venosa</i>			○		
	ウミエナ	ホノウミエナ	<i>Batillaria attramentaria</i>		○			
	タマキビガイ	タマキビ	<i>Littorina brevicula</i>		○		絶滅のおそれのある地域個体群(LP)	
		アラレタマキビ	<i>Nodilittorina radiata</i>		○			
		ツメタガイ	<i>Glossaulax didyma</i>		○			
		アッキガイ	レイシガイ	<i>Reishia bronni</i>		○		
		カリバガサ	シマノウフネガイ	<i>Crepidula onyx</i>			○	総合対策外来種
二枚貝	イガイ	ミドリイガイ	<i>Perna viridis</i>			○	総合対策外来種	
	イタボガキ	マガキ	<i>Crassostrea gigas</i>		○	○		
	マテガイ	マテガイ	<i>Solen strictus</i>	○	○	○	絶滅のおそれのある地域個体群(LP)	
	オキナガイ	ソトオリガイ	<i>Exolaternula liautaudi</i>		○			
	シジミ	ヤマトシジミ	<i>Corbicula japonica</i>	○			準絶滅危惧(NT)	
		ホンビノスガイ	<i>Mercenaria mercenaria</i>		○		総合対策外来種	
		アサリ	<i>Ruditapes philippinarum</i>	○	○	○		
		カキ	-	○				
		バカガイ	バカガイ	<i>Mactra chinensis</i>		○		
		イワホリガイ	シオフキガイ	<i>Mactra quadrangularis</i>	○	○	○	
多板	フジツボ	ウスカラシオツボガイ	<i>Ptericola, sp.</i>		○			
		フネガイ	サルボウガイ			○		
		アサシガイ	シズクガイ	<i>Theora fragilis</i>		○		
	カハダヒザラガイ	カハダヒザラガイ	<i>Acanthochitona achates</i>		○			
	顎脚	フジツボ	タテジマフジツボ	<i>Amphibalanus amphitrite</i>		○	総合対策外来種	
			シロスジフジツボ	<i>Balanus albicostatus</i>		○		
			-	-	○			
		イワフジツボ	イワフジツボ	<i>Chthamalus challengerii</i>		○	○	
	軟甲	ヤドカリ	テナガツノヤドカリ	<i>Diogenes nitidimanus</i>		○		情報不足(DD)
			コブヨコバサミ	<i>Clibanarius infraspinitus</i>		○	○	
ホンヤドカリ		ユビナガホンヤドカリ	<i>Pagurus minutus</i>		○			
アナジャコ		アナジャコ	<i>Upogebia major</i>	○				
エビジャコ		ウリタエビジャコ	<i>Crangon uritai</i>		○			
		コマツキガニ	<i>Scopimera globosa</i>		○			
オサガニ		ヤマトオサガニ	<i>Macrophthalmus japonicus</i>	○				
ベンケイガニ		ヒメベンケイガニ	<i>Nanosesarma minutus</i>		○			
イワガニ		オキナガレガニ	<i>Planes major</i>					
モクズガニ		クフサイソガニ	<i>Hemigrapsus penicillatus</i>			○		
		タカノケフサイソガニ	<i>Hemigrapsus takanoi</i>			○		
		ヒライソガニ	<i>Gaetice depressus</i>			○		
		イソガニ	<i>Hemigrapsus sanguineus</i>			○		
		ケアシヒライソガニ(仮称)	<i>Gaetice cf. unguatus</i>			○		
コブシガニ		マメコブシガニ	<i>Philyra pisum</i>		○	○		
スナガニ		スナガニ	<i>Ocyropsis stimpsoni</i>		○			
テナガエビ		シラタエビ	<i>Exopalaemon orientis</i>		○			
		ユビナガスジエビ	<i>Palaemon macrodactylus</i>		○			
		スジエビモドキ	<i>Palaemon serrifer</i>		○			
コンボソコエビ		ニホンドロソコエビ	<i>Granddierella japonica</i>		○			
		-	-		○			
スナウミナナフシ		ムロミスナウミナナフシ	<i>Cyathura muromiensis</i> Nunomura		○			
ヨコエビ		-	-		○			
ヒゲナガヨコエビ		モズミヨコエビ	<i>Ampithoe valida</i>		○			
		シリケンウミセミ	<i>Dynoides dentisinus</i>		○			
フナムシ		キタフナムシ	<i>Ligia cinerascens</i>		○			
		-	-		○			
サクラエビ		アキアミ	<i>Acetes japonicus</i>		○			
クモガニ		イッカククモガニ	<i>Pyromia tuberculata</i>		○			
甲殻		ガザミ	ガザミ	<i>Portunus trituberculatus</i>		○	○	
		タイワンガザミ	<i>Portunus pelagicus</i>		○			
		イシガニ	<i>Charybdis japonica</i>		○	○		
		アミメノキリガザミ	<i>Scylla serrata</i>		○			
	ドロクダムシ	アリアケドロクダムシ	<i>Monocorophium acherusicum</i>		○			
クモヒトデ	クモヒトデ	<i>Diastylis trilineata</i>		○				
トックリウミグモ	クシノクモヒトデ	<i>Ophiura kinbergi</i>		○				
	カイヤドリウミグモ	<i>Nymphonella tapetis</i>		○				
海鞘	ユウレイボヤ	カクウユウレイボヤ	<i>Ciona intestinalis</i>		○			

綱	科	種名		東京	千葉	神奈川	環境省レッドリスト/ 海洋生物レッドリスト※	生態系被害防止 外来種リスト※	
		和名	学名	多摩川 河口大田区側	浦安市 日の出地先	潮彩の 渚			
									カテゴリ
頭足	コウイカ	コウイカ属	<i>Sepia</i>		○				
	ヤリイカ	ジンドウイカ	<i>Loliolus (Nipponololigo) japonica</i>		○				
軟骨魚	アカエイ	アカエイ	<i>Dasvatis akatei</i>		○				
条鰭	ボラ	ボラ	<i>Mugil cf. cephalus</i>		○	○			
	ハゼ	マハゼ	<i>Acanthogobius flavimanus</i>	○	○	○			
		ミズハゼ	<i>Luciogobius guttatus</i>	○					
		チチブ	<i>Tridentiger obscurus</i>			○			
		ツマグロスジハゼ	<i>Acentrogobius sp.2</i>		○				
		アゴハゼ	<i>Chaenogobius annularis</i>		○				
		アカオビシマハゼ	<i>Tridentiger trigonocephalus</i>		○				
		ピリンゴ	<i>Gymnogobius breunigii</i>	○					
		シマハゼ類	-			○			
		コチ	マゴチ	<i>Platycephalus sp.2</i>		○			
		ギマ	ギマ	<i>Triacanthus biaculeatus</i>		○	○		
	メジナ	メジナ	<i>Girella punctata</i>			○			
	タイ	クロダイ	<i>Acanthopagrus schlegelii</i>		○	○			
	スズキ	スズキ	<i>Lateolabrax japonicus</i>		○		絶滅のおそれのある地域個体群 (LP)		
	シマイサキ	コトヒキ	<i>Terapon jarbua</i>		○				
ヨウジウオ	ヨウジウオ	<i>Syngnathus schlegelii</i>		○	○				
カタクチイワシ	カタクチイワシ	<i>Engraulis japonica</i>		○					
トウゴロウイワシ	トウゴロウイワシ	<i>Doboatherina bleekeri</i>		○					

※環境省レッドリスト/海洋生物レッドリスト：評価カテゴリーは絶滅 (EX)、野生絶滅 (EW)、絶滅危惧 IA 類 (CR)、絶滅危惧 IB 類 (EN)、絶滅危惧 I 類 (CR+EN)、絶滅危惧 II 類 (VU)、準絶滅危惧 (NT)、情報不足 (DD)、絶滅のおそれのある地域個体群 (LP) の 8 つに分けられる。絶滅危惧 2 類 (VU) は「絶滅の危険が増大している種」、準絶滅危惧 (NT) は「現時点での絶滅危険度は小さいが、生息条件の変化によっては『絶滅危惧』に移行する可能性のある種」と定義される。

※生態系被害防止外来種リスト：定着を予防する外来種 (定着予防外来種)、総合的に対策が必要な外来種 (総合対策外来種)、適切な管理が必要な産業上重要な外来種 (産業管理外来種) の大きく 3 つに分類される。

表 8-3 干潟調査で確認された生物種 (過年度との比較)

綱	科	種名		調査年						
		和名	学名	令和2年 (1団体1地点)	令和3年 (1団体1地点)	令和4年 (7団体5地点)	令和5年 (6団体6地点)	令和6年 (5団体3地点)	令和7年 (4団体3地点)	
被子植物	アマモ	コアマモ	<i>Zostera japonica</i>			○	○			
海綿	イソカイメン	ナミノカイメン	<i>Halichondria (Halichondria) panicea</i>			○				
鉢虫	オキクラゲ	アカクラゲ	<i>Chrysaora pacifica</i>		○	○	○	○	○	
	ミスクラゲ	ミスクラゲ	<i>Aurelia cf. coerulea</i>	○	○			○	○	
ヒドロ虫	ハナガサクラゲ	ハナガサクラゲ	<i>Olinthias formosa</i>	○		○				
	ウミヒドラ	カイウミヒドラ	<i>Schuchertinia epiconcha</i>			○			○	
花虫	タテジマイソギンチャク	タテジマイソギンチャク	<i>Diadumene lineata</i>			○	○	○	○	
	ホウザウイソギンチャク	ホウザウイソギンチャク	<i>Svrandwakia hozawai</i>				○	○	○	
	ウミサボテン	ウミサボテン	<i>Cavernularia obesa</i>				○	○	○	
多毛	ゴカイ	ヤマトカワゴカイ	<i>Hediste diadroma</i>			○		○	○	
		カワゴカイ属	<i>Hediste sp.</i>			○	○			
		アシナゴカイ	<i>Neanthes succinea</i>					○	○	
		オウギゴカイ	<i>Nectoneanthes latipoda</i>					○		
		クマドリゴカイ	<i>Perinereis cultrifera</i>					○	○	
		デンゴゴカイ	<i>Pseudoneis variegata</i>					○	○	
		コケゴカイ	<i>Simplisetia erythraensis</i>					○	○	
		ミナシロガネゴカイ	<i>Nephtys polybranchia</i>					○	○	
		-	-		○	○		○	○	○
		-	-					○	○	○
	イトゴカイ	-					○	○	○	
	カンザシゴカイ	-					○	○	○	
	イソムシ	イソムシ	<i>Marphysa sanguinea</i>			○				
		イソムシ 種群	-				○	○	○	○
		ピカイソムシ	アカムシ	<i>Halla okudai</i>					○	○
		ナナテイソムシ	スコカイソムシ	<i>Diopatra sugokai</i>			○	○	○	○
		ギボシイソムシ	コアシギボシイソムシ	<i>Scoletoma nipponica</i>				○	○	○
		スピオ	Parapriospio属	-				○		
		シノハネエラスピオ	<i>Parapriospio patiens</i>					○		
		マダラスピオ	<i>Polydora brevipalpa</i>					○		
		アミメオニスピオ	<i>Pseudopolydora bassarginensis</i>						○	○
		-	-						○	○
	チロリ	ヒガタチロリ	<i>Glyceria macintoshi</i>						○	○
		-	-						○	○
		チロリ属の一種・未同定	<i>Glyceria sp.</i>		○				○	○
ミスヒキゴカイ		ミスヒキゴカイ	<i>Cirriiformia tentaculata</i>	○				○	○	
ミスヒキゴカイ 種群		-						○	○	
タマシキゴカイ		タマシキゴカイ	<i>Arenicola brasiliensis</i>			○	○	○	○	
オフェリアゴカイ		ツツオフェリア	<i>Armandia cf. amakusaensis</i>				○	○	○	
ツバサゴカイ		ツバサゴカイ	<i>Chaetopterus cautus</i>					○	○	
シリス		シロマダラシリス	<i>Syllis adamantea</i>					○	○	
クロコムシ		ハモチウロコムシ	<i>Lepidonotus dentatus</i>					○	○	
裸蟻 (組形動物門)	フサコケムシ	ナギサコケムシ	<i>Bugulina californica</i>					○	○	
	-	-						○	○	
ヒモムシ類	-	-						○	○	
	-	-						○	○	
腹足	ニシキウスガイ	イボキサゴ	<i>Umbonium moniliferum</i>	○				○	○	
		アラムシロガイ	<i>Reticunassa festiva</i>		○	○	○	○	○	
	ムシロガイ	ムシロガイ	<i>Niotha livescens</i>					○	○	
		アッキガイ	イボニシ	<i>Thais clavigera</i>			○	○	○	
	アカニシ	<i>Rapana venosa</i>			○	○	○	○		
	ウミニナ	ボンウミニナ	<i>Batillaria attramentaria</i>			○	○	○		
	カノキセウタ	カノキセウタ	<i>Melanochlamys fukudai</i>				○	○		
	タマキビガイ	タマキビ	<i>Littorina brevicula</i>			○	○	○		
	アラレタマキビ	アラレタマキビ	<i>Nodilittorina radiata</i>				○	○		
	カワザンショウガイ	カワザンショウガイ	<i>Assimineidae</i>	○				○	○	
	-	-						○	○	
	タマガイ	ボウヤツメタ	<i>Neverita didyma hosovai</i>				○			
	ツメタガイ	<i>Glossaulax didyma</i>						○	○	
	オオシノミガイ	ムラクモキジビキガイ	<i>Japonactaeon nipponensis</i>				○			
	アッキガイ	レイシガイ	<i>Reishia browni</i>					○	○	
	カリバガサ	シマメクワフネガイ	<i>Crepidula onyx</i>					○	○	
	トウガタガイ	ヒガタヨイトカケギリ	<i>Cingulina sp.</i>					○	○	
	ヘコムツラガイ	コメツラガイ	<i>Retusa insignis</i>					○	○	
	リュウテン	コシダカガンガラ	<i>Tegula rustica</i>					○	○	
	二枚貝	イガイ	ホトギスガイ	<i>Musculista senhousia</i>			○	○	○	○
			ムラサキイガイ	<i>Mytilus galloprovincialis</i>			○	○	○	○
			ミドリイガイ	<i>Perna viridis</i>			○	○	○	○
			コウエンカワヒバリガイ	<i>Xenostrobus securis</i>			○	○	○	○
			カワヒバリガイ	<i>Limnoperna fortunei</i>			○	○	○	○
		マガキ	<i>Crassostrea gigas</i>		○		○	○	○	
イシガイ		カラスガイ	<i>Cristaria plicata</i>		○			○	○	
マテガイ		マテガイ	<i>Solen strictus</i>	○		○	○	○	○	
エゾマテガイ		<i>Solen krusensteri</i>			○	○	○	○		
オキナガイ		トオリガイ	<i>Exolaternula liautaudi</i>	○		○	○	○	○	
シジミ		キマツシジミ	<i>Corbicula japonica</i>	○	○		○	○	○	
		カイワシシジミ	<i>Corbicula fluminea</i>				○	○	○	
-		-					○	○		
フナガタガイ		ウネナシトマヤガイ	<i>Trapezium liratum</i>					○	○	
マルスタレガイ		オキシジミ	<i>Cyclina aff. sinensis</i>	○	○	○	○	○	○	
		ボンビノスガイ	<i>Mercenaria mercenaria</i>			○	○	○	○	
		ハマグリ	<i>Meretrix lusoria</i>	○		○	○	○	○	
		ハマグリ属の一種・未同定	<i>Meretrix sp.</i>			○	○	○	○	
		アサリ	<i>Ruditapes philippinarum</i>	○	○	○	○	○	○	
カガミガイ		<i>Dosinia japonica</i>				○	○	○		
チリハギガイ		<i>Lasaea undulata</i>					○	○		
カキ		-	-					○	○	
シオサザナミガイ		イソシジミ	<i>Nuttalia olivacea</i>	○	○	○		○	○	
ニッコウガイ		サビシラリ	<i>Macoma contabulata</i>			○		○	○	
		ヒメシラリ	<i>Macoma incongrua</i>					○	○	
サカラガイ	<i>Nitidotellina hokkaidoensis</i>					○	○			
バカガイ	バカガイ	<i>Mactra chinensis</i>					○	○		
	シオフキガイ	<i>Mactra quadrangularis</i>	○		○		○	○		
チトセノハナガイ	チヨノハナガイ	<i>Raeta pulchella</i>				○	○			
イワホリガイ	ウスカラシオツガイ	<i>Ptericola sp.</i>					○	○		
フネガイ	サルボウガイ	<i>Anadara kagoshimensis</i>					○	○		
アサシガイ	シズクガイ	<i>Theora fragilis</i>					○	○		
多板	ケハダヒザラガイ	ヒメケハダヒザラガイ	<i>Acanthochitona achates</i>				○	○		

綱	科	種名		調査年					
		和名	学名	令和2年 (1団体1地点)	令和3年 (1団体1地点)	令和4年 (7団体5地点)	令和5年 (6団体6地点)	令和6年 (5団体3地点)	令和7年 (4団体3地点)
顎脚	フジツボ	ヨーロッパフジツボ	<i>Amphibalanus improvisus</i>			○	○		
		アメリカフジツボ	<i>Amphibalanus eburneus</i>			○			
		カタジマフジツボ	<i>Amphibalanus amphitrite</i>			○			
		ドロフジツボ	<i>Fistulobalanus kondakovi</i>				○	○	○
		シロスジフジツボ	<i>Balanus albicostatus</i>					○	○
		-	-					○	○
軟甲	イワフジツボ	イワフジツボ	<i>Chthamalus challengerii</i>				○	○	○
		エボシガイ	<i>Lepas anatifera</i>				○	○	○
		ミウマガイ	<i>Pollicipes mitella</i>					○	○
		ヤドカリ	テナガツノヤドカリ	<i>Diogenes nitidimanus</i>			○	○	○
			コブヨコバサミ	<i>Clibanarius infraspinatus</i>			○	○	○
		-	-					○	○
軟甲	ホンヤドカリ	ユビナガホンヤドカリ	<i>Pagurus minutus</i>			○	○	○	○
		アナジャコ	<i>Upoebia major</i>			○	○	○	○
		エビジャコ	<i>Crangon uritai</i>			○	○	○	○
		ハサミシヤコエビ	<i>Laomedea astacina</i>			○	○	○	○
		コメツキガニ	チゴガニ	<i>Ilyoplax pusilla</i>			○	○	○
			コメツキガニ	<i>Scopimera globosa</i>			○	○	○
軟甲	オサガニ	オサガニ	<i>Macrophthalmus abbreviatus</i>			○	○	○	○
		ヤマトオサガニ	<i>Macrophthalmus japonicus</i>			○	○	○	○
		ベンケイガニ	ベンケイガニ	<i>Orisarma intermedium</i>			○	○	○
			クロベンケイガニ	<i>Orisarma dehaari</i>			○	○	○
			カクベンケイガニ	<i>Parasesarma pictum</i>			○	○	○
			アカテガニ	<i>Chiromantes haematocheir</i>			○	○	○
軟甲	イワガニ	ヒメベンケイガニ	<i>Nanosesarma minutus</i>						○
		オキナガレガニ	<i>Planes major</i>						○
		モクスガニ	ケフサイソガニ	<i>Hemigrapsus penicillatus</i>			○	○	○
			タカノケフサイソガニ	<i>Hemigrapsus takanoi</i>			○	○	○
			ヒライソガニ	<i>Gaetice depressus</i>			○	○	○
			イソガニ	<i>Hemigrapsus sanguineus</i>			○	○	○
軟甲	モクスガニ	アソハラガニ	<i>Helice tridens</i>			○	○	○	○
			ケアンヒライソガニ(仮称)	<i>Gaetice cf. unguilatus</i>					○
		コブシガニ	マズコブシガニ	<i>Philyra pisum</i>			○	○	○
			ヒラコブシ	<i>Philyra svndactyla</i>				○	○
		スナガニ	スナガニ	<i>Oecypode stimpsoni</i>				○	○
		イソオウギガニ	スズメオウギガニ	<i>Sphaerolius nitidus</i>					○
軟甲	オウギガニ	シワオウギガニ	<i>Macromedaeus distinguendus</i>					○	○
		同定できなかったカニ	-					○	○
		テナガエビ	シラタエビ	<i>Exoplaemon orientis</i>			○	○	○
			テナガエビ	<i>Macrobrachium nipponense</i>			○	○	○
			スジエビ	<i>Palaemon paucidens</i>			○	○	○
			ユビナガスジエビ	<i>Palaemon macrodactylus</i>			○	○	○
軟甲	コンボソコエビ	イソスジエビ	<i>Palaemon pacificus</i>				○	○	○
			スジエビモドキ	<i>Palaemon serrifer</i>				○	○
			スジエビ属	-				○	○
			ニホンドロソコエビ	<i>Grandidierella japonica</i>					○
			-	-					○
			ヒゲナガモエビ	<i>Lysmata vittata</i>					○
軟甲	テッポウエビ	イソテッポウエビ	<i>Alpheus lobidens</i>			○	○	○	○
		フトオビイソテッポウエビ類	<i>Alpheus sp.</i>			○	○	○	○
		テッポウエビ	<i>Alpheus brevirostratus</i>					○	○
		スナモグリ	ニホンスナモグリ	<i>Callinassa japonica</i>			○	○	○
			-	-					○
			スナウミナナフシ	<i>Cyathura muromiensis</i>			○	○	○
軟甲	ウミナナフシ	ナナフシ	-				○	○	○
		ヨコエビ	-				○	○	○
		ヒゲナガヨコエビ	モズミヨコエビ	<i>Ampithoe valida</i>				○	○
		カクレガニ	オオシロビノ	<i>Arcotheres sinensis</i>			○	○	○
		キンセンガニ	キンセンガニ	<i>Matua victor</i>			○	○	○
		クルマエビ	クルマエビ	<i>Marsupenaeus japonicus</i>			○	○	○
軟甲	コツブムシ	イソコツブムシ類	<i>Gnorimosphaeroma sp.</i>			○	○	○	○
			シリケンウミセミ	<i>Dronoides dentisimus</i>				○	○
			-	-					○
			スナホリムシ	-			○	○	○
			ワレカラ	<i>Caprella penantis</i>				○	○
			トグワレカラ	<i>Caprella scaura</i>				○	○
軟甲	フナムシ	キタフナムシ	<i>Ligia cinerascens</i>			○	○	○	○
		フナムシ	<i>Ligia exotica</i>			○	○	○	○
			-	-				○	○
			カクアエビ	<i>Acetes japonicus</i>				○	○
			クモガニ	<i>Pyromata tuberculata</i>				○	○
			ガザミ	<i>Portunus trituberculatus</i>			○	○	○
甲殻	ガザミ	タイワンガザミ	<i>Portunus pelagicus</i>				○	○	○
		イソガニ	<i>Charybdis japonica</i>				○	○	○
			アミメノコギリガザミ	<i>Scylla serrata</i>				○	○
		ミドリガニ	チチュウカイミドリガニ	<i>Carcinus aestuarii</i>			○	○	○
		ドロクダムシ	アリアドロクダムシ	<i>Monocorophium acherusicum</i>				○	○
		クマ	ミソビクマ	<i>Diastylis tricornata</i>				○	○
クモヒトデ	クモヒトデ	クシノクモヒトデ	<i>Ophiura kinbergi</i>				○	○	○
			-	-				○	○
		昆虫	ヒシバツタ	-			○	○	○
			バツタ	クルマバツタモドキ	<i>Oedaleus infernalis</i>			○	○
				トノサマバツタ	<i>Locusta migratoria</i>			○	○
				ショウリョウバツタ	<i>Acrida cinerea</i>			○	○
昆虫	バツタ		ショウリョウバツタモドキ	<i>Gonista bicolor</i>			○	○	
			マダラバツタ	<i>Aiolopus thalassinus tamulus</i>			○	○	
			オンブバツタ	<i>Atractomorpha lata</i>			○	○	
			キリギリ	<i>Conocephalus maculatus</i>			○	○	
			カマキリ	<i>Tenodera angustipennis</i>			○	○	
			コオロギ	オカスコオロギ類	<i>Loxoblemmus sp.</i>			○	○
昆虫	トンボ		エンマコオロギ	<i>Teleogryllus emma</i>			○	○	
			シバズ	<i>Polionemobius mikado</i>			○	○	
			アキアカネ	<i>Sympetrum frequens</i>			○	○	
			イトトンボ	<i>Coenagrion sp.</i>				○	
			スズメバチ	<i>Theretra oldenlandiae</i>			○	○	
			シロチョウ	<i>Eurema mandarina</i>			○	○	
ウミダコ	ウミダコ		ムシヒキアブ	<i>Cophinopoda chinensis</i>			○	○	
			オオハサミムシ	<i>Lahidura riparia</i>			○	○	
			アメンボ	<i>Gerris latidominis</i>				○	
			イソウミダコ	<i>Ammonothea hilgendorfi</i>				○	
			トックリウミダコ	<i>Nymphonella tapetis</i>				○	

綱	科	種名		調査年							
		和名	学名	令和2年 (1団体1地点)	令和3年 (1団体1地点)	令和4年 (7団体5地点)	令和5年 (6団体6地点)	令和6年 (5団体3地点)	令和7年 (4団体3地点)		
海鞘	シロボヤ	シロボヤ	<i>Stvela plicata</i>			○	○				
		エボヤ	<i>Stvela clava</i>				○				
		カタユレイボヤ	<i>Ciona intestinalis</i>					○	○		
頭足	コウイカ	コウイカ属	<i>Sepia</i>						○		
		シンドウイカ	<i>Lololus (Nipponololigo) japonica</i>						○		
軟骨魚	アカエイ	アカエイ	<i>Dasiratis akabei</i>			○		○	○		
条鯖	ニシン	サツバ	<i>Sardinella zunasi</i>			○		○	○		
		ボラ	<i>Mugil cf. cephalus</i>			○		○	○		
		マハゼ	<i>Acanthogobius flavimanus</i>			○		○	○		
		アナンシロハゼ	<i>Acanthogobius lactipes</i>			○		○	○		
		ヒモハゼ	<i>Eutaenichthys gilli</i>		○	○		○			
		ミマスハゼ	<i>Luciogobius guttatus</i>			○		○	○		
		エドハゼ	<i>Gymnogobius macrognathos</i>			○		○			
		チカゼンハゼ	<i>Gymnogobius uchidai</i>			○		○			
		シモフリシマハゼ	<i>Tridentiger bifasciatus</i>			○		○			
		チチフ	<i>Tridentiger obscurus</i>			○		○	○		
		アベハゼ	<i>Mugilogobius abei</i>			○		○			
		マサゴハゼ	<i>Pseudogobius masago</i>			○		○			
		ヒモハゼ	<i>Favonigobius gymnauchen</i>			○		○			
		ツマゴロスジハゼ	<i>Acentrogobius sp. 2</i>			○		○	○		
		アゴハゼ	<i>Chaenogobius annularis</i>			○		○	○		
		アカオビシマハゼ	<i>Tridentiger trigonocephalus</i>			○		○	○		
		ピリンゴ	<i>Gymnogobius breunjei</i>			○		○	○		
		ドロメ	<i>Chaenogobius gulosus</i>			○		○			
		ウロハゼ	<i>Glossogobius olivaceus</i>			○		○			
		スマチチフ	<i>Tridentiger brevispinis</i>			○		○			
		チチフ属	-			○		○			
		ハゼ類	-		○			○			
		シマハゼ類	-					○	○		
		イソギンボ	イダデンギンボ	イダデンギンボ	<i>Omobranchus punctatus</i>			○		○	○
				ナベカ	<i>Omobranchus elegans</i>			○		○	
		コチ	イソギンボ	イソギンボ	<i>Parablennius vatabei</i>			○		○	
				コチ	<i>Platycephalus sp.</i>			○		○	
		ネズツボ	ネズミゴチ	ネズミゴチ	<i>Repomucenus curvicularis</i>			○		○	○
				ギマ	<i>Triacanthus biaculeatus</i>			○		○	○
		イサキ	コショウダイ	コショウダイ	<i>Plectrohinchus cinctus</i>			○		○	
		マジナ	マジナ	マジナ	<i>Girella punctata</i>			○		○	
		メダカ	ミナミメダカ	ミナミメダカ	<i>Orzias latipes</i>			○		○	
		タイ	キチヌ	キチヌ	<i>Acanthopagrus latus</i>			○		○	
				クロダイ	<i>Acanthopagrus schlegelii</i>			○		○	○
		ニシン	コシロ	コシロ	<i>Konosirus punctatus</i>			○		○	
		コイ	マルタ	マルタ	<i>Pseudaspius brandtii maruta</i>			○		○	
				コイ(形不明)	-			○		○	
ニゴイ属	-					○		○			
アジ	ギンガメアジ	ギンガメアジ	<i>Caranx sexfasciatus</i>			○		○	○		
		スズキ	<i>Lateolabrax japonicus</i>			○		○	○		
ヒイラギ	ヒイラギ	ヒイラギ	<i>Nucleaquila nuchalis</i>			○		○			
フグ	カサフグ	カサフグ	<i>Takifugu alboplumbeus</i>			○		○			
シマイサキ	コトヒキ	コトヒキ	<i>Terapon jarbua</i>			○		○	○		
ヨウジウオ	ヨウジウオ	ヨウジウオ	<i>Syngnathus schlegelii</i>			○		○			
カタケチイワシ	カタケチイワシ	カタケチイワシ	<i>Engraulis japonica</i>			○		○	○		
トウゴロウイワシ	トウゴロウイワシ	トウゴロウイワシ	<i>Doboatherina bleekeri</i>			○		○	○		
鳥	ハト	カワラハト	<i>Columba livia</i>		○	○	○				
		チュウシャクシギ	<i>Numenius phaeopus</i>	○							
	シギ	キアシシギ	<i>Heteroscelus brevipes</i>	○		○					
		カモ	カルガモ	<i>Anas zonorhyncha</i>			○		○		
	カモメ	ウミネコ	<i>Larus crassirostris</i>	○	○	○		○	○		
		コアシサシ	<i>Sterna albifrons</i>			○		○			
	サギ	ダイサギ	<i>Ardea alba</i>		○	○		○			
		コサギ	<i>Egretta garzetta</i>	○	○	○		○			
		アオサギ	<i>Ardea cinerea</i>		○	○		○			
	ウ	カワウ	<i>Phalacrocorax carbo</i>	○	○	○	○				
	チドリ	ダイオドリ	<i>Charadrius mongolus</i>			○					
	カラス	ハンボツカラス	<i>Corvus corone</i>		○	○					
		ハンブトカラス	<i>Corvus macrorhynchos</i>	○	○	○	○				
	ヒバリ	ヒバリ	<i>Alauda arvensis</i>	○	○	○					
	ツバメ	ツバメ	<i>Hirundo rustica</i>	○	○	○					
	ヨシキリ	オオヨシキリ	<i>Acrocephalus orientalis</i>		○	○					
	セッカ	セッカ	<i>Cisticola juncidis</i>	○	○	○	○				
	ムクドリ	ムクドリ	<i>Spodiopsar cineraceus</i>	○	○	○					
	スズメ	スズメ	<i>Passer montanus</i>	○	○	○					
	セキレイ	ハクセキレイ	<i>Motacilla alba lugens</i>		○	○					
	アトリ	カワラヒワ	<i>Chloris sinica</i>	○		○					

(4) カニ生息一斉調査について

令和7年度は2団体によりカニ生息一斉調査が実施されました（調査シートの例は図8-3）。なお、調査結果については干潟調査の結果（表8-2）に含まれています。

とうきょうわん せいそくいつ せいちようき ちようき 東京湾 カニ生息一斉調査 調査シート

(参加者用)

1. 調査情報

調査した日時	名物 年 月 日 時～ 分	調査した人	<input type="checkbox"/> 小学生未満 <input type="checkbox"/> 小学生 <input type="checkbox"/> 中学生 <input type="checkbox"/> 高校生 <input type="checkbox"/> 大人
天気/気温	<input type="checkbox"/> 晴れ <input type="checkbox"/> くもり <input type="checkbox"/> 曇 / <input type="checkbox"/> 雨 <small>(気温は摂氏で記入)</small>	気温	℃
調査した場所	場所の様子 <input type="checkbox"/> 砂地 <input type="checkbox"/> 泥地 <input type="checkbox"/> ヨシ原 <input type="checkbox"/> 林、草地 <input type="checkbox"/> 海水の水邊 <input type="checkbox"/> 石ころ <input type="checkbox"/> コンクリート <input type="checkbox"/> カオの群		

2. 観察された生き物

観察された生き物	発見数(見つけたらチェック！)	見つけた場所の様子 カニの特徴(大きさ、色など)
チチュウカイミドリガニ	<input type="checkbox"/> 1匹 <input type="checkbox"/> 2匹 <input type="checkbox"/> 3匹以上 (匹)	
マメコブシガニ	<input type="checkbox"/> 1匹 <input type="checkbox"/> 2匹 <input type="checkbox"/> 3匹以上 (匹)	
ケフサイソガニ	<input type="checkbox"/> 1匹 <input type="checkbox"/> 2匹 <input type="checkbox"/> 3匹以上 (匹)	
タカノケフサイソガニ	<input type="checkbox"/> 1匹 <input type="checkbox"/> 2匹 <input type="checkbox"/> 3匹以上 (匹)	
ハマガニ	<input type="checkbox"/> 1匹 <input type="checkbox"/> 2匹 <input type="checkbox"/> 3匹以上 (匹)	
アシハラガニ	<input type="checkbox"/> 1匹 <input type="checkbox"/> 2匹 <input type="checkbox"/> 3匹以上 (匹)	
アカテガニ	<input type="checkbox"/> 1匹 <input type="checkbox"/> 2匹 <input type="checkbox"/> 3匹以上 (匹)	
クロベンケイガニ	<input type="checkbox"/> 1匹 <input type="checkbox"/> 2匹 <input type="checkbox"/> 3匹以上 (匹)	
クシテガニ	<input type="checkbox"/> 1匹 <input type="checkbox"/> 2匹 <input type="checkbox"/> 3匹以上 (匹)	
ウモレベンケイガニ	<input type="checkbox"/> 1匹 <input type="checkbox"/> 2匹 <input type="checkbox"/> 3匹以上 (匹)	
イシガニ	<input type="checkbox"/> 1匹 <input type="checkbox"/> 2匹 <input type="checkbox"/> 3匹以上 (匹)	
コメツキガニ	<input type="checkbox"/> 1匹 <input type="checkbox"/> 2匹 <input type="checkbox"/> 3匹以上 (匹)	
チコガニ	<input type="checkbox"/> 1匹 <input type="checkbox"/> 2匹 <input type="checkbox"/> 3匹以上 (匹)	
オサガニ	<input type="checkbox"/> 1匹 <input type="checkbox"/> 2匹 <input type="checkbox"/> 3匹以上 (匹)	
ヤマトオサガニ	<input type="checkbox"/> 1匹 <input type="checkbox"/> 2匹 <input type="checkbox"/> 3匹以上 (匹)	
種類がわからなかったカニ	<input type="checkbox"/> 1匹 <input type="checkbox"/> 2匹 <input type="checkbox"/> 3匹以上 (匹)	

種類がわからないときは、「干潟ベントスフィールド図鑑(日本国際湿地保全協会)」が参考になるよ！(カニの絵がいろいろあるよ、この図鑑のページが書いてあるよ！)

裏面のスケッチ欄も使ってみてね！

もし気に入ったカニがいたら、スケッチしてみよう！

カニの名前	
気に入ったポイント	

(ここに絵を書いてね)

※提出されたスケッチの一部は報告書「東京湾臨海一斉調査の結果」に掲載されます。

~~~~~ご参加されたカニ生息一斉調査についてアンケートにご協力ください~~~~

|                                    |                                                                                                                                                                                            |
|------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| ご参加者のご年齢                           | <input type="checkbox"/> 19歳 <input type="checkbox"/> 20~29歳 <input type="checkbox"/> 30~39歳 <input type="checkbox"/> 40~49歳 <input type="checkbox"/> 50~59歳 <input type="checkbox"/> 60歳~ |
| お住まいの地域                            | <input type="checkbox"/> 東京都 <input type="checkbox"/> 埼玉県 <input type="checkbox"/> 千葉県 <input type="checkbox"/> 神奈川県 <input type="checkbox"/> その他( )                                       |
| ご参加のきっかけ<br><small>(複数回答可)</small> | <input type="checkbox"/> ホームページ <input type="checkbox"/> 知人 <input type="checkbox"/> 雑誌・チラシ <input type="checkbox"/> SNS <input type="checkbox"/> その他( )                                   |
| 今回のカニ一斉調査の満足度                      | <input type="checkbox"/> 大変よかった <input type="checkbox"/> ややよかった <input type="checkbox"/> 普通 <input type="checkbox"/> ややよくなかった <input type="checkbox"/> よくなかった                              |
| その他、ご意見・ご感想、改善点などお聞かせください          |                                                                                                                                                                                            |

図8-3 カニ生息一斉調査の調査シート

## 8-2 その他の調査

### (1) 調査参加機関

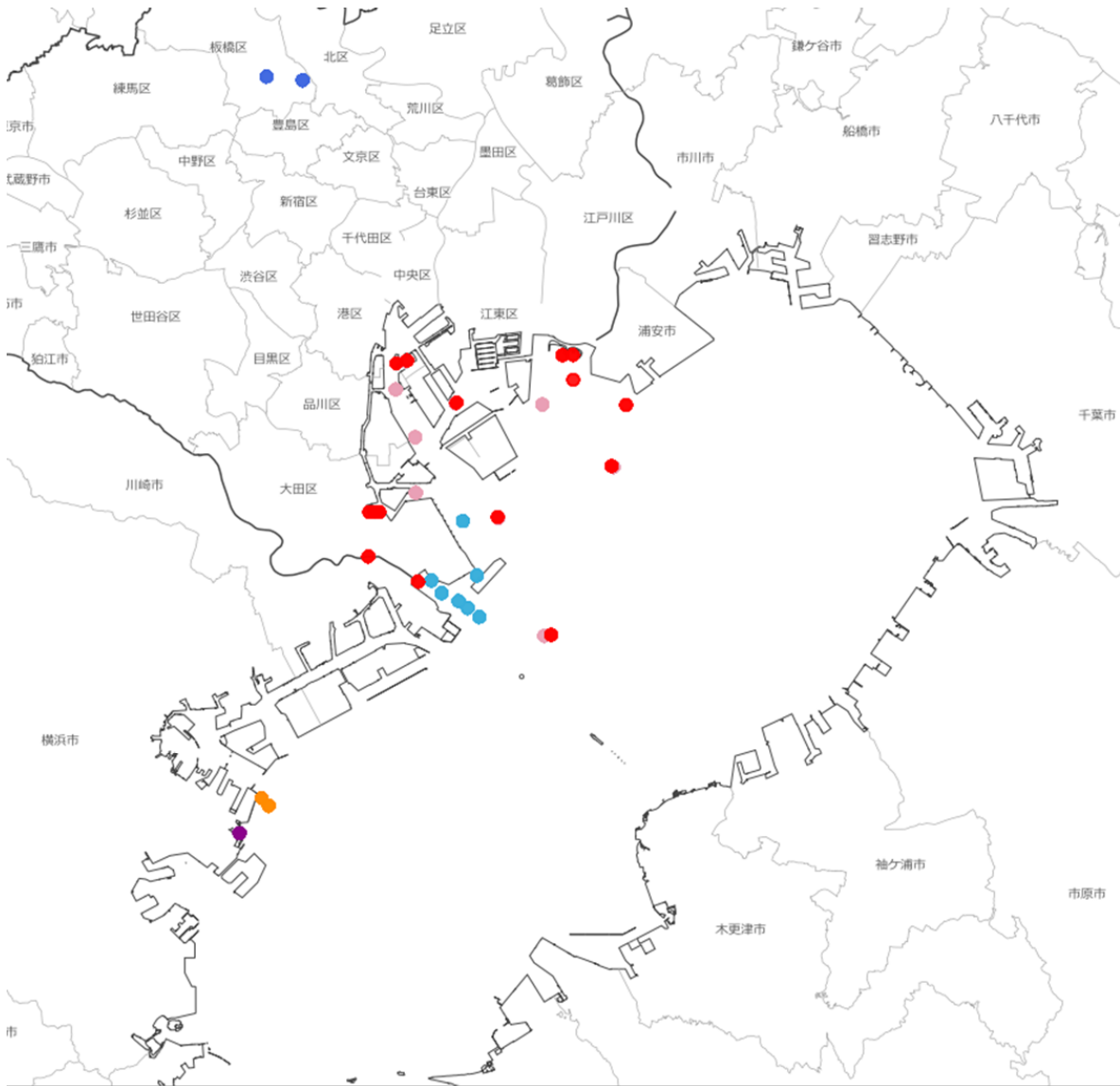
令和7年度は、5団体から干潟以外（河川、沖合など）の生物・プランクトン調査について報告がありました（表8-4）。

表8-4 その他の調査の実施実績

| 報告書<br>番号 | 実施・主催機関                   | 調査場所・地点名          | 実施日                                                        | 調査内容                                                 |
|-----------|---------------------------|-------------------|------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------|
| ①         | 国土交通省関東地方整備局<br>東京空港整備事務所 | 東京湾内              | (1) 8月6日<br>8月14日<br>(2) 8月4日                              | (1) 底生生物<br>(2) 付着生物                                 |
| ②         | 京浜港湾事務所                   | 新本牧地区             | 6月30日～<br>7月7日                                             | 水生生物                                                 |
| ③         | 東京都環境局自然環境部<br>水環境課       | 東京湾内              | (1) 7月29日<br>(2) 8月8日<br>(3) 9月4日<br>(4) 8月7日<br>(5) 8月21日 | (1) プランクトン<br>(2) 稚魚<br>(3) 成魚<br>(4) 鳥類<br>(5) 底生生物 |
| ④         | 東京都板橋区                    | 石神井川<br>(久保田橋、緑橋) | 7月29日                                                      | 魚類、底生動物                                              |
| ⑤         | 横浜市港湾局                    | 横浜港本牧沖            | 8月7日<br>8月8日<br>8月18日<br>8月19日                             | 海藻類、水生生物<br>及び着生生物等                                  |

### (2) 調査実施地点

調査は、図8-4に示す地点で実施されました。



出典：海洋状況表示システム(<https://www.msil.go.jp>)、国土地理院 (GSI)

- 国土交通省 関東地方整備局 東京空港整備事務所(海底底生生物) (報告書番号①)
- 国土交通省 関東地方整備局 京浜港湾事務所(水生生物) (報告書番号②)
- 東京都環境局自然環境部水環境課(プランクトン調査) (報告書番号③)
- 東京都環境局自然環境部水環境課(東京都内湾部、浅海部、干潟部) (報告書番号③)
- 東京都板橋区(石神井川(久保田橋、緑橋)) (報告書番号④)
- 横浜市港湾局(横浜港本牧沖) (報告書番号⑤)

図8-4 その他の調査の実施地点

### (3) 干潟以外の調査の結果

干潟以外の調査について、報告された結果の概要は以下のとおり。

- ① 国土交通省関東地方整備局東京空港整備事務所が羽田空港付近で行った底生生物調査では、シノブハネエラスピオ、ハナオカカギゴカイ、イトエラスピオ（環形動物門）、アサリ等が確認された。
- ② 国土交通省関東地方整備局京浜港湾事務所が新本牧地区で行った水生生物調査では、イソギンポ付着卵、カサゴ当歳魚、マダコ、マナマコ、ムラサキイガイ、リュウグウハゼ等が確認された。
- ③ 東京都が行ったプランクトン赤潮調査においては、細胞数では珪藻の *Skeletonema costatum* が最多となり、次いで *Thalassiosira* spp. の順に多く確認された。動物プランクトンでは繊毛虫類の *Oligotrichida* が多く確認された。
- ④ 東京都が行った東京都の干潟部における稚魚調査においては、全地点でビリンゴ、マハゼ、シラタエビが確認された。東京都の内湾部、浅海部における成魚調査においては、スズキ、マルアジが2地点で確認された。東京都の内湾部、浅海部、干潟部における底生生物調査においては、ヤマトシジミ、アサリ、ホンビノスガイ等が確認された。内湾部の海域は、下層で貧酸素状態であった。
- ⑤ 板橋区が石神井川で行った調査では、魚類調査においては、モツゴ、ドジョウ、ヒガシシマドジョウ、ギバチ等の魚類が確認された。底生動物調査においては、モノアラガイ属、カワリヌマエビ属、モズクガニ、ウデマガリコカゲロウ、コガタシマトビゲラ等が確認された。
- ⑥ 横浜市港湾局が行った横浜港本牧沖の調査では、藍藻綱、海綿動物門、イソギンチャク目、シロボヤ、ウスカラシオツガイ、ヒバリガイ等が確認された。

### 8-3 「東京湾生物情報とりまとめおせつ会」による取組

#### (1) 取組の概要

「東京湾生物情報とりまとめおせつ会」が、様々な団体に観察結果の提供を呼びかけ、10団体が24地点において2025年に東京湾で観察した生物種の取りまとめを実施しました（表8-5）。

表 8-5 「東京湾生物情報とりまとめおせつ会」が取りまとめた調査の実施実績

| レポート番号<br>掲載ページ | 実施・主催機関                                                                                                                                 | 調査場所・地点名 | 実施日        |
|-----------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|----------|------------|
| ①<br>p. III-1   | 浦安水辺の会<br>大田区環境マイスターの会<br>カニ探し隊<br>財団法人エコロジカルデモクラシー<br>三番瀬環境学習館<br>東京湾再生官民連携フォーラム多摩川河口プロジェクトチーム<br>多摩川干潟ネットワーク/だいし水辺の楽校<br>干潟館<br>干潟観察会 | 東京湾全域    | 令和7年1月～12月 |

## 9. 環境啓発活動等のイベント開催実績

東京湾の海域及び流域河川の水質改善等に関する普及啓発活動を含むイベントは、表9-1のとおり、9件の環境啓発活動等のイベントが開催されました。  
(募集時に対象期間とした7月～10月外のものも含まれます。)

表9-1 環境啓発活動の開催実績 (実施日順)

| 報告書<br>番号 | 開催場所                         | 実施日             | 活動内容等                             | 主催                                                       |
|-----------|------------------------------|-----------------|-----------------------------------|----------------------------------------------------------|
| 1         | 横浜市金沢・西区、<br>千葉県富津・木更津<br>市  | 4月～12<br>月      | 東京湾 UMI プロジェ<br>クトによるアマモ場<br>再生活動 | 東京湾 UMI プロジェク<br>ト参加企業、金沢八景一<br>東京湾アマモ場再生会<br>議、海辺つくり研究会 |
| 2         | 旭化成株式会社<br>製造統括本部<br>川崎製造所   | 6月1日～<br>6月30日  | 製造所環境月間の取<br>り組み                  | 旭化成株式会社<br>製造統括本部川崎製造所<br>環境安全部                          |
| 3         | 富津市下洲海岸                      | 6月7日            | 富津海岸清掃活動                          | 日本製鉄株式会社技術開<br>発本部                                       |
| 4         | 株式会社日本触媒<br>川崎製造所            | 6月23日           | 2025年度環境大会                        | 株式会社日本触媒<br>川崎製造所                                        |
| 5         | 横浜市港北区内の<br>小学校              | 7月11日           | 海の日に関する出前<br>授業                   | 横浜港湾空港技術調査事<br>務所                                        |
| 6         | 横浜港湾空港技術<br>調査事務所<br>生物共生型護岸 | 7月24日           | 江戸前アサリわくわ<br>く調査                  | 横浜港湾空港技術調査事<br>務所                                        |
| 7         | 横浜港湾空港技術<br>調査事務所<br>生物共生型護岸 | 8月8日            | 生物観察会・横浜の<br>海はいま?                | 横浜港湾空港技術調査事<br>務所                                        |
| 8         | 東亜合成株式会社<br>川崎工場             | 8月28日           | 工場一斉清掃                            | 東亜合成株式会社<br>川崎工場                                         |
| 9         | 横浜港湾空港技術<br>調査事務所<br>生物共生型護岸 | 9月18日～<br>9月19日 | 近隣小学校の環境学<br>習                    | 横浜港湾空港技術調査事<br>務所                                        |
| 10        | 横浜市役所アトリ<br>ウム               | 9月27日～<br>9月28日 | 東京湾大感謝祭2025                       | 東京湾大感謝祭実行委員<br>会                                         |

## イベントレポート1

### 環境啓発活動等のイベントの概要

| 主催機関                                         | イベント名                                              |
|----------------------------------------------|----------------------------------------------------|
| 東京湾 UMI プロジェクト参加企業、金沢八景ー東京湾アマモ場再生会議、海辺つくり研究会 | 東京湾 UMI プロジェクトによるアマモ場再生活動<br>(アマモ移植、花枝採取、種子選別、種まき) |
| <b>参加人数とそのうちの子供の数</b>                        |                                                    |
| 参加合計人数 約 1,500 名<br>そのうち子供 約 200 名           |                                                    |

#### 【イベント概要】

東京湾 UMI プロジェクトに参加する企業や NPO、一般市民等の多様な主体と協働でアマモ場の再生活動を行っています。今年度は、主に富津干潟に自生するアマモを用いて、横浜市海の公園でのアマモ場再生に取り組みました。

具体的な活動としては、アマモの生態に合わせて、4～7 月はアマモの移植や花枝採取(種子採取)、7～10 月は種子選別、11～12 月は苗床づくりや播種(種まき)を行いました。

#### 【主な活動実績】

##### 1 アマモの移植・花枝採取

実施時期 : 令和7年4月～6月のうち13日間  
実施場所 : 横浜市金沢区海の公園、千葉県富津市、木更津市  
参加人数 : 総勢 約800名

##### 2 アマモの種子選別

実施時期 : 令和7年7月～10月のうち3日間  
実施場所 : 横浜市金沢区柴漁港  
参加人数 : 総勢 約70名

##### 3 アマモの苗床づくり・播種(種まき)

実施時期 : 令和7年11月～12月のうち9日間  
実施場所 : 横浜市金沢区柴漁港、横浜市金沢区海の公園、横浜市西区臨港パーク  
参加人数 : 総勢 約630名

#### 【UMI プロジェクト参加企業】

一般財団法人セブン-イレブン記念財団、東京ガス株式会社、東洋建設株式会社、マルハニチロ株式会社、東京海上日動火災保険株式会社、日本テレビ放送網株式会社、栗田工業株式会社、株式会社フォーバル、朝日生命保険相互会社、五洋建設株式会社、株式会社 INPEX、パナソニック

クオオペレーショナルエクセレンス株式会社、三菱電機株式会社、株式会社明電舎  
(1) アマモの移植・花枝採取イベントの様子



(2) アマモの種子選別イベントの様子



(3) アマモの苗床づくりイベントの様子



苗床の作成



苗床の作成→播種



アマモの種



水槽内に設置して管理

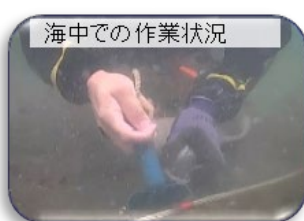
(4) アマモの播種(種まき)イベントの様子



生分解性不織布袋にお絵かき



アマモの種と砂を袋に入れる



海中での作業状況



播種作業をモニターで見守り



※アマモの種と砂を不織布袋に入れた後、ダイバーさんが海底に埋める

## イベントレポート2

### 環境啓発活動等のイベントの概要

| 主催機関                                 | イベント名        |
|--------------------------------------|--------------|
| 旭化成（株） 製造統括本部川崎製造所<br>環境安全部          | 製造所環境月間の取り組み |
| 参加人数とそのうちの子供の数                       |              |
| 参加合計人数 約 950 名<br>そのうち 小学生 0名、中学生 0名 |              |

#### 【イベント概要】

環境月間に合わせて、製造所内で各種取り組みを実施した。

#### 【開催時期】

令和7年6月1日～6月30日

#### 【場所】

旭化成(株)製造統括本部川崎製造所内の各部署

#### 【主なイベント内容】

製造所内の各部署で以下の活動を実施した。

#### <活動内容>

1. 公害発生源施設及び公害防止施設の総点検
2. 従業員への環境研修及び啓発  
(部場における環境関連設備等に関する教育・周知、トラブル時の対応訓練、等)
3. 施設内・周辺の美化及び環境保全対策  
(排水溝の清掃、通路の清掃、施設内の除草、配水管の清掃、等)

### イベントレポート3

#### 環境啓発活動等のイベントの概要

|                                      |          |
|--------------------------------------|----------|
| 主催機関                                 | イベント名    |
| 日本製鉄株式会社技術開発本部                       | 富津海岸清掃活動 |
| 参加人数とそのうちの子供の数                       |          |
| 参加合計人数 103 名<br>そのうち 小学生 4 名、中学生 0 名 |          |

#### 【イベント概要】

日本製鉄(株)技術開発本部富津地区の勤務者から有志を募り、地元である富津市下洲海岸の清掃活動を実施しました。

#### 【開催時期】

令和7年6月7日

#### 【場所】

富津市下洲海岸

#### 【主なイベント内容】

日本製鉄(株)技術開発本部富津地区の勤務者103名が参加して、10時～11時まで清掃活動実施しました。海開き前に海岸のごみが一掃され、美しい砂浜になりました。

#### (活動状況)



#### (回収されたごみ)



## イベントレポート4

### 環境啓発活動等のイベントの概要

|                                   |             |
|-----------------------------------|-------------|
| 主催機関                              | イベント名       |
| 株式会社日本触媒 川崎製造所                    | 2025年度 環境大会 |
| 参加人数とそのうちの子供の数                    |             |
| 参加合計人数 144名<br>そのうち 小学生 0名、中学生 0名 |             |

#### 【イベント概要】

製造所で従業員、協力会社員を対象に環境大会を開催し、144名が参加した。

#### 【開催時期】

2025年6月23日

#### 【場所】

自社(千鳥工場をメイン会場として、千鳥工場と浮島工場を Teams で繋ぎ、会場を分散して開催)

#### 【主なイベント内容】

従業員及び協力会社員に製造所の環境負荷量推移や環境関連の規制動向等について説明した。

## イベントレポート5

### 環境啓発活動等のイベントの概要

|                         |             |
|-------------------------|-------------|
| 主催機関                    | イベント名       |
| 横浜港湾空港技術調査事務所           | 海の日に関する出前授業 |
| 参加人数とそのうちの子供の数          |             |
| 参加合計人数 105 名            |             |
| そのうち 小学生 99 名 小学校教諭 6 名 |             |

#### 【イベント概要】

横浜市港北区内の小学校の4年生3クラスを対象に、海の日に関連した出前授業を行いました。東京湾のことなどに関する座学に加え、東京湾の生き物やゴミ問題について直接触れる場を設けました。

#### 【開催時期】

令和7年7月11日

#### 【場所】

横浜市港北区内の小学校（会場は理科室）



#### 【主なイベント内容】

小学校の理科室を1日貸し切って、小学4年生3クラスを対象にした出前授業を行いました。「海の日」にちなんだ開催であり、東京湾のことをテーマにした座学を行うとともに、当事務所の「潮彩の渚」にいる生物によるタッチプールの設置や実際に漂着した海ごみを展示するなど、児童が直接手で触れる場を設け、東京湾のことを身近に感じられるような内容としました。



1クラスずつの授業



タッチプールの様子

## イベントレポート6

### 環境啓発活動等のイベントの概要

|                                                          |              |
|----------------------------------------------------------|--------------|
| 主催機関                                                     | イベント名        |
| 横浜港湾空港技術調査事務所                                            | 江戸前アサリわくわく調査 |
| 参加人数とそのうちの子供の数                                           |              |
| 参加合計人数 24 名<br>そのうち 小学生 11 名 中学生 1 名 保護者 8 名 近隣小学校教諭 4 名 |              |

#### 【イベント概要】

小学生を対象に、事務所 HP や関係機関のご協力によるチラシ配架等で参加者を募り、東京湾のアサリがいつ・どこでわくのかを調べる江戸前アサリ「わくわく」調査を実施しました。

【開催時期】 令和7年7月24日

#### 【場所】

横浜港湾空港技術調査事務所  
生物共生型護岸「潮彩の渚」(人工干潟)  
横浜市神奈川区橋本町2-1-4



#### 【主なイベント内容】

25cm×25cm×10cmの「わく」内にどれだけのアサリが「わく」かを調査しました。  
調査地点16箇所で合計154個、殻長は1~27mmでした。(10mm前後が大半を占める)  
東京湾のアサリに関する座学も行いました。(講師\_東邦大学名誉教授・風呂田先生)



調査の全景



調査の様子 (採取)

## イベントレポート7

### 環境啓発活動等のイベントの概要

|                                                   |                                         |
|---------------------------------------------------|-----------------------------------------|
| 主催機関                                              | イベント名                                   |
| 横浜港湾空港技術調査事務所                                     | 生物観察会・横浜の海はいま？<br>～ハマにたどり着いた見知らぬ生きものたち～ |
| 参加人数とそのうちの子供の数                                    |                                         |
| 参加合計人数 26名<br>そのうち 小学生 12名 中学生 1名 未就学児 2名 保護者 11名 |                                         |

#### 【イベント概要】

小学生を対象に、事務所 HP や関係機関のご協力によるチラシ配架等で参加者を募り、人工干潟で生物観察会を行いました。特に付着生物や外来生物に着目した生物観察会を開催しました。

#### 【開催時期】

令和7年8月8日

#### 【場所】

横浜港湾空港技術調査事務所  
生物共生型護岸「潮彩の渚」(人工干潟)  
横浜市神奈川区橋本町2-1-4



#### 【主なイベント内容】

外来海洋生物(ミドリイガイ等)や付着生物(マガキやフジツボ等)を中心とした干潟の生物を調査しました。その後は室内で顕微鏡で拡大観察しながら、貝の細かな模様や動く様子も観察しました。

ミドリイガイなどの外来海洋生物や付着生物に関する座学も行いました。(講師\_神奈川大学非常勤講師・植田先生)



調査の全景



座学の様子

## イベントレポート8

### 環境啓発活動等のイベントの概要

|                                      |                 |
|--------------------------------------|-----------------|
| 主催機関                                 | イベント名           |
| 東亜合成株式会社 川崎工場                        | 工場一斉清掃（8月28日実施） |
| 参加人数とそのうちの子供の数                       |                 |
| 参加合計人数 20名（推定）<br>そのうち 小学生 0名、中学生 0名 |                 |

## イベントレポート9

### 環境啓発活動等のイベントの概要

|                                                  |            |
|--------------------------------------------------|------------|
| 主催機関                                             | イベント名      |
| 横浜港湾空港技術調査事務所                                    | 近隣小学校の環境学習 |
| 参加人数とそのうちの子供の数                                   |            |
| 参加合計人数 93 名<br>そのうち 小学生 84 名 小学校教諭 3 名 随行保護者 6 名 |            |

#### 【イベント概要】

横浜市神奈川区内の小学校の4年生3クラスが来所し、「潮彩の渚」において環境学習を行いました。6月に続いて2回目の来所であり、干潟において稚ガニや稚貝に着目した調査・観察を行いました。

#### 【開催時期】

令和7年9月18日～9月19日

#### 【場所】

国土交通省横浜港湾空港技術調査事務所  
生物共生型護岸「潮彩の渚」  
横浜市神奈川区橋本町2-1-4



#### 【主なイベント内容】

総合の授業の一環として3クラスが来所し、人工干潟で活動しました。各クラスともに海の環境に関する活動テーマを各々掲げており、そのテーマに沿った座学を行いながら、海の生き物観察や干潟の土の観察、漂着ごみを拾う活動などを行いました。東京湾環境情報センターを用いて、東京湾の水質・水温などについて理解を深めました。



人工干潟での生物観察



座学の様子

## イベントレポート10

### 環境啓発活動等のイベントの概要

| 主催機関            | イベント名        |
|-----------------|--------------|
| 東京湾大感謝祭実行委員会    | 東京湾大感謝祭 2025 |
| 参加人数            |              |
| 参加合計人数 12,000 名 |              |

#### 【イベント概要】

東京湾大感謝祭実行委員会（事務局：東京都港区虎ノ門3丁目1番10号一般財団法人みなと総合研究財団内）は、横浜市役所アトリウムを会場に9月27日（土）～28日（日）「東京湾大感謝祭 2025」を実施した。東京湾大感謝祭は、東京湾に親しみを感じ、東京湾の海に関する現状を知る良いチャンスを提供する。

東京湾再生行動計画（第三期）※1の新しい目標「流域 3,000万人の心を豊かにする「東京湾」の創出」に沿って、東京湾大感謝祭 2025では、多くの方々の交流の場を提供し、東京湾に親しみ、心を豊かにするきっかけづくりに取り組んでいる。10月1日は、「東京湾の日」で、10月開催の沿岸各地のイベントとの連携の環を広げ、東京湾をとりまく湾岸自治体との連携をはかっている。

#### <開催概要>

- イベント名：東京湾大感謝祭 2025
- 会期：2025年9月27日（土）～28日（日） 10：00～17：00
- 会場：横浜市役所アトリウム
- 入場：無料
  
- 主催：東京湾大感謝祭実行委員会  
（実行委員長：寺元 敏光 東京湾フェリー株式会社 常務取締役）
- 共催：国土交通省関東地方整備局、環境省、横浜市、  
東京湾再生官民連携フォーラム、（一財）みなと総合研究財団、  
東京湾の環境をよくするために行動する会
- 後援：水産庁、東京湾再生推進会議、東京都、埼玉県、千葉県、神奈川県、  
川崎市、千葉市、さいたま市、横須賀市
- 協力：横浜港運協会、（公財）横浜市観光協会、（一社）横浜港振興協会、  
経団連自然保護協議会、（一財）セブン-イレブン記念財団、  
（一社）日本埋立浚渫協会、千葉県漁業協同組合連合会、  
神奈川県漁業協同組合連合会、横浜市漁業協同組合、  
横浜港ボート天国推進連絡協議会、東京湾フェリー株式会社、神奈川大学、

NPO 法人日本ビーチ文化振興協会、(公財)日本釣振興会、NPO 法人海辺づくり研究会、  
NPO 法人 Blue Earth Project、東京湾遊漁船業協同組合

#### <開催規模>

- ・出展組織/団体：32、 協賛組織/団体：13 (出展との重複含む)
- ・来場者：東京湾流域に在住・勤務の市民の方々、自治体、研究者、企業、NPO の方々

#### <おもなイベント内容>

##### ◆ステージ

- ・オープニングセレモニー
- ・東京湾・地元自慢・マイフィールド・ホームタウン- (1-1) 館山市、(1-2) 横浜市港湾局、  
(2)東京都 朝潮地区運河ルネサンス協議会
- ・東京湾を楽しむために～海洋レジャーの安全・ルール・マナーを守ろう～
- ・トップアスリートがはだしで語る「僕たちが描くビーチスポーツの環境未来」
- ・水の天使と考えよう！下水道と東京湾再生について
- ・江戸前ブランドの魚達を楽しむ方法！

##### <ふれる、作る>

- ・海・海藻と遊ぶ・体験～海藻で万華鏡をつくろう～
- ・東京湾・クッキング フードコーディネーター西原佳江さんによる東京湾クッキング

##### <見る、知る>

- ・ここにいる、生きている～消えゆく海藻の森に導かれて～ドキュメンタリー映画  
ハイライト版上映 長谷川 友美 監督 対談
- ・生き物、干潟ロードの紹介と環境学習体験  
東京湾の魅力再発見の旅 神奈川大学 学生たち
- ・東京湾お台場の水中は今！

##### <音楽・ダンス・マスコットキャラクター>

- ・横浜 F・マリノスホームタウン活動&トリコロールマーメイズ  
リトルマーメイズ チアステージ
- ・横浜市民こどもミュージカル
- ・ボーカル&ギター ～TOKYO-ONE の歌～ ORICA さん
- ・music 黒船楽団 C.f.o 鍵盤ハーモニカカルテット
- ・マスコットキャラクター紹介

##### ◆展示

- ・海、港湾づくりの技術、企業活動を紹介する多数の展示。生き物や環境に配慮した知恵の工夫・技術が詰まっています。

##### ■食す 買う

東京湾マルシェ (アトリウム屋外・北プラザ)

<出展者表彰・結果>

2025年より出展ブースの表彰を実施しました。

三洋テクノマリン様が「素晴らしいアイデア de 賞」、

下水道プラットホーム様が「ワクワクした de 賞」、

南房総宿泊・滞在型観光推進協議会様が「しっかり伝わった de 賞」を受賞

<連携イベント>

第25回東京湾シンポジウム/主催 国土技術政策総合研究所(国総研)

東京湾周遊特別クルーズ-船上で東京湾の環境を学ぶ-/主催 東京湾フェリー(株)

ジャパンビーチゲームズ®フェスティバル千葉2025/事務局：NPO 法人ビーチ文化振興協会

「つり初めて親子のためのハゼ釣り入門教室」(公財)日本釣振興会 神奈川県支部

<関連展示>

・横浜市役所アトリウム2F PR スペース 9/13～9/28

※「東京湾再生のための行動計画（第三期）」

[https://www1.kaiho.mlit.go.jp/TB\\_renaissance/index.html](https://www1.kaiho.mlit.go.jp/TB_renaissance/index.html)

目標：快適に水遊びができ、「江戸前」をはじめ多くの生物が生息する、親しみやすく美しい豊かな「海」を多様な主体が協力しあうことで取り戻す～ 流域3,000万人の心を豊かにする「東京湾」の創出 ～

<東京湾大感謝祭 2025 オープニングセレモニー9月27日>



東京湾大感謝祭 2025 セレモニー



上段 寺元敏光実行委員長 来賓の方をお迎えしてのご挨拶

下段：左側から寺元敏光実行委員長、東京湾再生官民連携フォーラム議長 佐々木淳さま、参議院議員 脇 雅昭さま、国土交通省 港湾局長 安部 賢さま、横浜市副市長 平原 敏英さま、マスコットキャラクターとともに開幕！

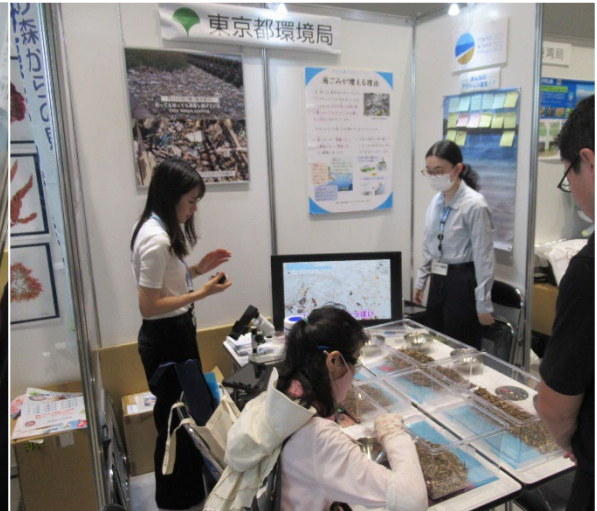
### ■展示ブース



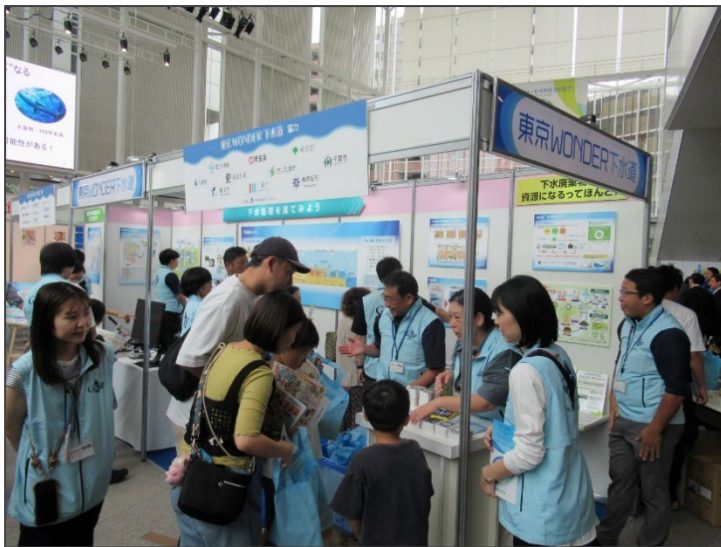
東亜建設工業(株) VR シミュレーター体験



若築建設(株) 若鷺丸を仮想空間で動かす体験



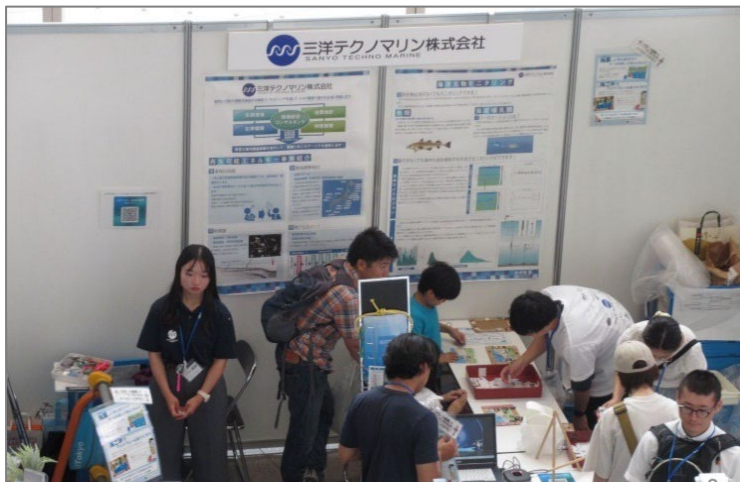
海藻おしば協会 海藻を使った万華鏡づくり教室 東京都 環境局 海ごみを考える、マイクロプラスチックを探すワークショップ



下水道広報プラットフォーム 下水道の仕組みを分かりやすく解説  
五洋建設(株) 水辺のVR体験 ▶



東洋建設(株) DASH 海岸 展示模型 アマモ里親チャレンジの実施



▲ 三洋テクノマリン(株) 海業について学ぼう

<9/27 ステージ>



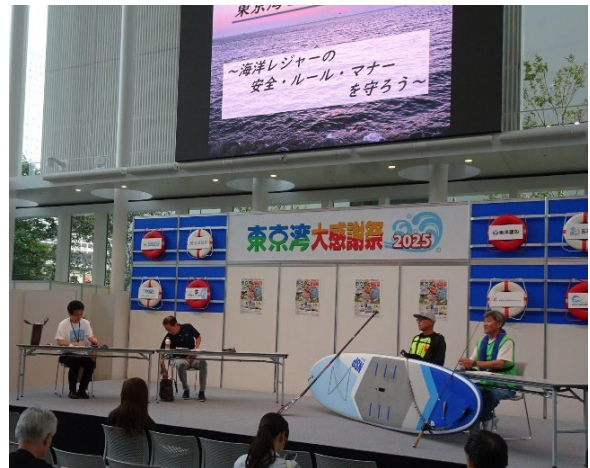
フードコーディネーター西原佳江による東京湾クッキング



東京湾クッキング出来上がり料理



東京湾・地元自慢 館山市 夢アジ



東京湾を楽しむために～海洋レジャーの安全・ルール・マナーを守ろう～



ドキュメンタリー映画「ここにいる、生きている～消えゆく海藻の森に導かれて」ハイライト版  
上映&トーク 長谷川 友美 監督×渡辺 健太郎 みなと総合研究財団調査研究部 主任研究員



水の天使と考えよう！下水道と東京湾再生

<9/27,28 ダンス&ミュージックステージ>



横浜 E.マリノスリトルマーメイズチアステージ



赤い靴記念文化事業団 横浜市民ミュージカル



黒船楽団 C.f.o 鍵盤ハーモニカカルテット



TOKYO-ONE の歌 ORICA さん

<9/28 ステージ>



マスコットキャラクター紹介ステージ



神奈川大学 東京湾の魅力再発見の旅



トップアスリートがはだして語る「僕たちが描くビーチスポーツの未来環境」

江戸前ブランドの魚達を楽しむ方法

<アトリウム通路側 東京湾再生官民連携フォーラム PT チームの展示>



モニタリング推進 PT によるハゼ、カニなどの粘土細工

東京湾の窓 PT によるカニのふれあい ▶



表彰式：左側から三洋テクノマリン様が「素晴らしいアイデア de 賞」、下水道プラットホーム様が「ワクワクした de 賞」、南房総宿泊・滞在型観光推進協議会様が「しっかり伝わった de 賞」を受賞

<アトリウム外側での東京湾マルシェ>



新米、地たまごなどの販売



キッチンカー黒船亭による横須賀海軍カレーとアジフライ

## 10. 用語解説

表 10-1 水質指標について

| 項目           | 説明                                                                                                                                                                                                    | 環境との関連                                                                                                                                                                                              |
|--------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 溶存酸素量 (DO)   | <p>水中に溶けている酸素量のこと<br/>で、酸素供給（大気からの溶解や植物プランクトンを含む藻類による光合成など）と消費（有機物の分解、生物の呼吸など）や移流・拡散のバランスを示します。水中に溶ける酸素量は水温が高くなると減少し、水温 20℃の時に約 9 mg/L で飽和状態となります。底層溶存酸素量（底層 DO）とは海底から 1 m 以内の底層で測定された溶存酸素量のことです。</p> | <p>貧酸素状態が続くと、好気性微生物（酸素を必要とする生物）にかわって嫌気性微生物（酸素を必要としない生物）が増殖するようになります。嫌気性微生物の活動により有機物の腐敗（還元・嫌氣的分解）が起こり、メタンやアンモニア、有害な硫化水素が発生し、悪臭の原因となります。また、溶存酸素濃度が 3 mg/L を切ると魚類を含めた多くの底生生物は生息できなくなり、生物多様性が低下します。</p> |
| 塩分           | <p>海水 1 kg 中に溶解している塩化ナトリウムなどを主とした固形物質の全量に相当します（絶対塩分）。海水には非常に多くの物質が溶け込んでおり、絶対塩分を直接測定することは困難なので、精度良く測定できる海水の電気伝導度から換算式を用いて仮想の塩分（実用塩分）を求める方法が一般的です。<br/>※単位は psu（実用塩分）</p>                               | <p>海面を通じた降水量と蒸発量の差や、河川水等による淡水流入の影響で変化します。低塩分の海水は密度が小さく、相対的に軽いため、表層に低塩分水が分布すると、底層と表層の海水が混ざりにくくなります。こうなると底層の水へ酸素が供給されにくくなることから底層の貧酸素化に影響します。</p>                                                      |
| ①透明度<br>②透視度 | <p>どちらも水の清濁を表現するための指標です。①は直径 30 cm の白色円盤（セッキ板）を水中に沈め、水面から肉眼で確認できる限界の深さをいい、②は透明な管に試料を入れて上部から透視し、白色の標識盤に書かれた印が初めて明らかに確認できるときの水層の高さをいいます。</p>                                                            | <p>①、②ともに値が大きいほど水が澄んでいることを表します。主に①は海や湖沼、②は河川や排水の調査等で使用されます。一般的に、水中に浮遊物質や生物が多くなると値は低下します。ダイビングにおいても透視度という用語を用いますが、これは水平方向に見通せる距離を表したものです。</p>                                                        |

| 項目                        | 説明                                                                                            | 環境との関連                                                                                                                    |
|---------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 化学的<br>酸素<br>要求量<br>(COD) | 水中の有機物を酸化剤で化学的に酸化する際に消費される酸化剤の量を酸素量に換算したもので、水中の有機物の分解に必要な酸素の量を表します。                           | 湖沼・海域などの停滞性水域や藻類の繁殖する水域の有機汚濁の指標に用いられます。CODが高い状態が続くと、生物生息環境の多様性が低下し、魚類を含めた底生生物は生息できなくなります。                                 |
| 全窒素<br>(T-N)              | 全窒素・全リンは、湖沼や内湾などの閉鎖性水域の富栄養化の指標として用いられています。水中では、窒素・リンは、硝酸・リン酸イオンなどの無機イオンや含窒素・含リン有機物として存在しています。 | 窒素やリンは、植物の生育に不可欠なものです。過剰な窒素やリンが内湾や湖に流入すると富栄養化が進み、植物プランクトンの異常増殖を引き起こすことがあります。そのため、湖沼におけるアオコや淡水赤潮の発生、内湾における赤潮発生の直接の原因となります。 |
| 全リン<br>(T-P)              |                                                                                               |                                                                                                                           |
| クロロ<br>フィル- <i>a</i>      | 全ての藻類に含まれる光合成色素であることから、水中の植物プランクトン量の指標として用いられます。                                              |                                                                                                                           |

## ○水質汚濁現象について

### ・赤潮（水質指標キーワード：全窒素、全リン、クロロフィル-*a*）

水中に生存している植物プランクトン等が異常に増殖し、水の色が著しく変わる現象です。水の色は原因となるプランクトンの種によって異なり、赤褐色、茶褐色などの色を呈します。赤潮が発生する背景としては、窒素やリンの流入負荷量増加に伴う水域の富栄養化が原因のひとつと指摘されています。大量に発生した赤潮生物は死滅後、微生物によって分解される過程で大量の酸素を消費するため、貧酸素水塊の形成要因のひとつとされています。この他にも、毒性を持つプランクトンによる赤潮は、その水域の生物に直接的に被害を与えることがあります。



写真：千葉港内（平成15年8月11日）



写真：隅田川河口部（平成22年7月5日）

### ・青潮（水質指標キーワード：DO）

富栄養化や有機物による水質汚濁の進んだ内海の底層では、大量発生したプランクトンの死骸が微生物に分解される過程で酸素が消費され、貧酸素水塊が形成されます。貧酸素水塊中では、底質中の硫黄化合物の還元が促進され、次第に水中への硫化水素の蓄積が進みます。このような水塊が風などによって表層まで湧き上がると、含まれていた硫化水素が酸素と反応して硫黄のコロイドを大量に生成します。コロイドは、太陽光を反射して海水を乳青色や乳白色に変色させます。青潮も赤潮と同様に水生生物の大量死を引き起こすなど、生物に被害を与えます。東京湾ではアサリの大量死が起こることもあります。



写真：羽田沖（平成16年8月18日）



写真：千葉港（平成23年8月30日）

・貧酸素水塊（水質指標キーワード：DO）

生物に影響を及ぼすほど酸素の濃度が低くなった水塊のことです。境界値についてはさまざまな指標がありますが、水産用水基準においては 4.3 mg/L が「底生生物の生息状況に変化を引き起こす臨界濃度」とされています。また、環境省が告示する生活環境の保全に関する環境基準において、生息段階において貧酸素耐性の低い水生生物が生息できる場を保全・再生する水域又は再生産段階において貧酸素耐性の低い水生生物が再生産できる場を保全・再生する水域の基準は 4.0 mg/L 以上、生息段階において貧酸素耐性の低い水生生物を除き、水生生物が生息できる場を保全・再生する水域又は再生産段階において貧酸素耐性の低い水生生物を除き、水生生物が再生産できる場を保全・再生する水域は 3.0 mg/L 以上とされています（詳しくは、<https://www.env.go.jp/kijun/mizu.html> をご覧ください）。

## 1 1. 問い合わせ先等

### (1) 問い合わせ先

本資料の内容や東京湾環境一斉調査についてのお問い合わせ・ご意見は、下記連絡先までお願いします。

- 東京湾再生推進会議モニタリング分科会事務局  
環境省水・大気環境局海洋環境課海域環境管理室 03-5521-8319
- 九都県市首脳会議環境問題対策委員会水質改善専門部会  
令和7年幹事 横浜市みどり環境局環境保全部水・土壌環境課 045-671-2489
- 東京湾岸自治体環境保全会議  
令和7年度幹事 川崎市環境局環境対策部環境保全課 044-200-2520
- 東京湾再生官民連携フォーラム  
東京湾環境モニタリングの推進プロジェクトチーム 03-5157-5235

### (2) 情報掲載先

東京湾環境一斉調査の報告書は東京湾環境一斉調査 WEB サイトに掲載しています。また、調査結果を分かり易くまとめた「東京湾環境 MAP」を国土技術政策総合研究所 WEB サイトにて掲載しています。

東京湾環境一斉調査の観測データは、東京湾環境情報センターから入手することができます。

- 東京湾環境一斉調査 WEB サイト  
[https://www.env.go.jp/water/heisa/tokyo\\_wqs.html](https://www.env.go.jp/water/heisa/tokyo_wqs.html)
- 国土技術政策総合研究所 WEB サイト（東京湾環境マップと事例集に関する情報）  
<https://www.y.sk.nilim.go.jp/kakubu/engan/kaiyou/kaiyouDB.html>
- 東京湾環境情報センター（国土交通省関東地方整備局港湾空港部横浜港湾空港技術調査事務所）  
<https://www.tbeic.go.jp/>

### (参考)

- 東京湾再生推進会議 WEB サイト  
[https://www1.kaiho.mlit.go.jp/KANKYO/TB\\_Renaissance/index.html](https://www1.kaiho.mlit.go.jp/KANKYO/TB_Renaissance/index.html)